836
209
3

茅草年録

鬼報録

百一

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

鬼報録第十四輯

庚辰十月 十一月

目録

一 在甲府依田生寄家兄書抄 九月八日付
二 十月五日筆記
三 風説 自十月八日 至仝十一日
四 武蔵十月七日北越津川発書 仝十三日四半時着
五 風雪記 十月十一日ゟ 仝二十一日迄
六 北陸経営宮参事ゟ参館 第十号
七 元国富進発北越新潟寄宿家蔵書 十月十四日
八 在甲斐依田生十月九日書状 十五日落手
九 又十七日書状 路途ニ認封 加
十 会津舎ゟ之女説并戯歌
十一 杉本鎖鑰示し 神ゟ宝ゟ
十二 多都伊馬ゟ参着迄并ニ途中之模様ニ付書状
十三 高廣戦務ニ免ゟ請書
十四 東巡日誌抄
十五 久英南話并高悌話
十六 仝凱陣総軍行程帳
十七 近関并北征兵隊凱旋

大 9.5.27 正

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3

ガラス使用

㊲ 仝 凱旋式

㊳ 戊辰十月廿二日新発田着 土屋五日迄

㊴ 紀聞 (談話)

㊵ 戊辰十一月十八日自越新発田宛来書

㊶ 北越諸侯当藩を寛宥書

㊷ 新聞 千八百六十八年第八月十九日 イトワトスる

㊸ 新潟開港之事談之写

㊹ 新発田藩中一右ノ分布告書

㊺ 大改官一建白 (別名藩家老連署)

㊻ 勅使六月二日京都発途北下記ノ分

㊼ 奥羽十七藩右ノ各名書写

㊽ 仙藩ヨリ同盟脱盟書

㊾ 新発田藩検断ヘ口達案

㊿ 六月十九日京発戦新発田死傷姓名

(甲) 紀新聞抄

(乙) 雑説 (又) (丙) 可泉筆記抄

(丁) 北征雑話附近頃新説 十一月十日ヨリ 仝二十六日迄

(戊) 討薩檄 十月廿一日 (己) 武敏十月十五日新発田着之脳ヨリ達

(庚) スヲル存込ノ譚

(辛) エトワルト スヲル降伏

(壬) スヲル降伏ノ譚

(癸) 武敏十一月十八日自越新発田宛来書

(子) 北越諸侯当藩を寛宥書

(丑) 新聞 千八百六十八年第八月十九日 イトワトスる

(寅) 新潟開港之事談之写

(卯) 新発田藩中一右ノ分布告書

(辰) 大改官一建白 (別名藩家老連署)

(巳) 勅使六月二日京都発途北下記ノ分

(午) 奥羽十七藩右ノ各名書写

(未) 仙藩ヨリ同盟脱盟書

(申) 新発田藩検断ヘ口達案

(酉) 六月十九日京発戦新発田死傷姓名

(戌) 紀新聞抄

(亥) 可泉紀聞抄

(一) 在中府侯田生寄宗兄書状 九月六日

(上略) 御城代杯ヨリ書面ヲ以御届ケ申上候通リ先般蓮池鍋島ヨリ 作右衛門ヲ以御届ケ申上候通リ先般蓮池鍋島ヨリ 作右衛門ヲ以

所証出ヲ以テ出張ノ諸藩引取ノ事永ノ義ニ付キ京都ヨリ達有之候ニ付キ護國隊ヲ追ノ砲術教者ヨリ達致シ候ニ付キ

分配様ニ相成ノ当時ノ上野原ノ様ニ相成居ル関口守衛ヲ護國隊

差置ク様ニ致シ候ニ付キ残兵ハ引取ル事ニ相成候ニ付キ

村ヘ引取ル様ニ先達ヨリ達有之候ニ付キ

四十人程ヲ以テ義砲術教者専ラ

一東京ヘ行幸当月二十日西京 御発輦ヨリ事右ニ付キ当地出張ノ藩ヨリ

一小隊ノ木沼 富士山近辺探索ノ巡邏ヨリ 作右衛門 翌日出張ニ相成ル小子

父ヨリ定ノ七ツ半ノ刻ヨリ発ニ相成ル様ニ相成ル

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

近山一帖を寄贈せられ度と云ふ依て之を諾し
ける旨を以て
謙二郎

十月廿七

(二)

一十月四日午後一人死帖を出すと云ふ中務
丞泉石衛門尉等三十騎
人々と云

一十三日夜敵土泉が牧野四郎左衛門尉藤井茂助遺骨并鉄幸一顆骨を送来
(甲斐国住人土泉次郎と云)
然るに戦劇を挙うするを有之企営に繰井之と云又牧野四郎左衛門尉
十三仏を図し之を吟詠して又も絶て涙を流すと云ふ
死後死体を実検する再儀は甲斐国住人土屋右衛門尉
(土泉次郎と云)

十月八日

(三)

一十月七日夕北行者ニヤ大石阪
(訛言)
土人呼ぶ戦争有之剋九日大小荷の我を殺奪し
有之間四方騒擾安堵大浪数十人と云ふ
一某人服之上軍艦小船を以て
帆柱を手折敵と為し敗北の体を
関係中船頭除女を以て誤て悩ませ
一某を我と五郎(元)
一一説に某を我と云ふ敵後援
此説を以て
引揚又ニ江戸某氏に当地に在之
(六)

後度之報ヲ聞ケリト称シテ急ギ之ヲ発セシメ

十月九日

一 十月九日黎明竹金氏救後ノ吻着スルヤ朝立ノ特急新発田発達早速之ヲ本下ニ云 仁和寺
後報ノ宮ハ未タ会田城ヲ出デス宮下ニ留ル旨ヲ聞キ急ニ之ヲ追ヒ会津ニ入ラシメ又ハ
其竹金ヲ行ヲシテ沼ヲシ七拳ヲ抜キ取リ之ヲ本下ニ送ラシメ 本下ニテハ
会津民事ニ之ヲ着ニ人ヲ相ノ之ヲ出ス 仰後 敵后ニ在ル会報ヲ
ヲ河ヲ強長ニ十造ヲ令ヲ家ヲ宮ニ追テ項下ニ有ヲ其返報ヲ到達ヲ
又ハ外ニ名ニ宗ニ為ニ海ヲ七拳ヲ 其ノ会津国ヲ
柳子ヲ云ニ為ニ変ヲ事ヲ云ヲ
露報ニ為ニ新発ヲ到着ニ依ヲ
難テ人ニ表ニハ 勿論ヲ
一 来ル陸仗弥ヲ速ヲ

藤村仁手ニ

一 会津字被陥ニ敵ニ為ニ体中ニ所在水戸脱走兵千余人
体後ヲ両勿論ヲ水ニ打倒ヲ
敵ヲ中ヲ兵隊ヲ行ル由ヲ
後ヲ二ヲ

一 此地ニ留守ヲ居ヲ丹羽新宮ヲ会ヲ彰義隊ニ人ヲ生
桶ヲ下ヲ云ヲ程ニル下ト云ニ由テ難ヲ行ヲ
一 男沿ニ発ヲ敵ヲ討ニ水戸ニ人ヲ士気ニ振ヘ兵ヲ到ニ
敗ヲ云ニ指ヲ之ヲ沿ヲ
一 此人ハ肥後人ニ服ヲ成ニ会津ヲ

さ[illegible]しハ辛ニ免レて今日有[illegible]を[illegible]辞退の[illegible]

一 今度紀州彼ノ赤坂集会一條ニテ紀州ノ[illegible]を[illegible]ト後ニ十八万石ノ[illegible]賜テ[illegible]細し
両道ニ[illegible]征[illegible]を[illegible]郡[illegible]ニテ紀三万[illegible]を[illegible]て[illegible]攻[illegible]還して
不醒[illegible]紀人[illegible]織ハ[illegible]之ト云々トソ

一 皇[illegible]口官軍ニ乱[illegible]ハ[illegible]ル[illegible]を[illegible]て[illegible]也

一 皇[illegible]ロト越後口ニ[illegible]不会[illegible]軍ノ参謀不和[illegible]其所争ハ[illegible]
天裁是[illegible]ノ一[illegible]ト[illegible]

一 [illegible]城[illegible]何[illegible]飯山上田[illegible]大敗[illegible]大[illegible]の[illegible]
[illegible]ニ在タル[illegible]之

一 [illegible]馬[illegible]川口[illegible]代[illegible]軍ニ請て城内ニ入[illegible]ト云[illegible]壁ハ[illegible]の
如く[illegible]死[illegible]城[illegible]土[illegible]

[illegible]ニ[illegible]追[illegible]保[illegible]ル[illegible]トソ

一 [illegible]ハ[illegible]各[illegible]四人[illegible]其外ハ[illegible]
接ニ皇[illegible]ハ東京府[illegible]国[illegible]後ハ太政官直ニ[illegible]両[illegible]ノ[illegible]

一 征[illegible]師凱旋ニ至[illegible]君公東京御参覲ノ[illegible]之其用度[illegible]更ニ[illegible]ノ[illegible]
ニハ[illegible]ノ東京ノ[illegible]吏ニ[illegible]者多[illegible]ト云

一 [illegible]兵学校ハ長深ノ建設[illegible]置[illegible]ノ[illegible]大[illegible]三
ハ[illegible]州[illegible]ノ[illegible]章[illegible]田[illegible]ニ云

一 近頃稲荷山ノ[illegible]者[illegible]ノ近ニ上州ヘ行[illegible]ノ[illegible]宿を求[illegible]不[illegible]又一[illegible]ト[illegible]不醒
故[illegible]ノ一[illegible]ハ[illegible]ト[illegible]
[illegible]縛し[illegible]一[illegible]ノ[illegible]アヤし[illegible]近[illegible]
[illegible]又[illegible]ノ[illegible]川ヲ[illegible]紀[illegible]大[illegible]

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

十月十四

一 一説に曰く貢士を升降する人を以て三百人に定むと（一説）

一 今は之を改正して百人を以て定むるや如何（一説）

若松民政役所

一 戊辰十月七日北越津川等の諸藩 今十三日四半時迄

一 立月中西軍二回迄ハ品川藩陣営ニ陣取候処 新政府より

一 政事之官軍と抗衡する水戸藩及越後長岡藩を賊と指定し

[illegible]

一 [illegible]

一 過日我軍御参内より二人程参詰被仰付候
私を御呼ニ而御用之儀ニ付早速参上仕候へハ即御
手紙ニ而多地人民多分騒動ニ而甚敷候ニ付
御参内ニ而も無之候ハヽ御帰宅ニ而も無之候ハヽ
御屋敷ニ而も御待受候様ニ被仰聞候ニ付
御屋敷ニ而御待受仕候処ニ而ハ無之候ニ付
早速参内仕候処ニ而ハ無之候ニ付
早速参内仕候処ニ而ハ無之候ニ付
早速参内仕候処ニ而ハ無之候ニ付

一 中老弐人家来弐人ニ而御供仕候様ニ被仰付
通行仕候ニ付ハ御供之儀ハ御断申上候処
御供仕候様ニ被仰付候ニ付御供仕候

一 孫娘之儀ニ付御尋之節ハ両人ニ而ハ無之
筈ニ付御断申上候処ニ而ハ無之候ニ付
御供仕候様ニ被仰付候ニ付御供仕候

一 孫娘之儀ニ付御尋之節ハ両人ニ而ハ無之
筈ニ付御断申上候処ニ而ハ無之候ニ付
御供仕候様ニ被仰付候ニ付御供仕候

十月七日夜

鬼報録

一十月十一日京師より手簡出之は侯之長之徒士西愛治郎
ゟ之書通ニて当月朔日之出状ニ御座候
一十二日新政府ゟ仙台へ御達之趣
一先頃ゟ出羽表へ御発向被為在候
（会津公ハ後ゟ御出馬之由）
（田舎記ニ三月十五日高田海内由之新潟ゟ出張之由）
すると二十日ニハ御帰城之御積ニ御座候。扨軍ハ七ツ口ニ而已ニ沢川ニ至而
牧野（会津先鋒ニ而ハ）
一藤田仙助
一会津侯ハ北六ヶ領ニ預
一我人衆ハ二百余御発途ニて其外ハ申ニ而
名主ニて行列ハ此ゟ新ニ定ル二ノ通ト之
一九ノ条ノ人数ハ大能下ニ而兵粮兵ゟ

る所なり武井氏をはじめ其眼の人と等き非
一昨日の田舎侍都ぢゝ　東京ぢゝ分て云ふ迄本陣信や万沢辺ぢゝ迄も
隊　到着仕候処八　到着仕候処ハ
一昨夜新発田を立て十八日二本松落城の後
下参事の説ぢゝ新之助を始め朝廷参ぢゝ
海矢ぢゝ再のぢゝ方氏代ぢゝ
一此辺ぢゝ参ぢゝ
ぢゝ一初手利
を知て二方面事ぢゝ
事庭、正金ハ引揚不ケ次正金等ぢゝ
兵伝達ぢゝ
十月十一日
一十月五日仙北征討為無隊四ツ千人宮河島通行ぢゝ
人数ぢゝ
砲ぢゝ
物ぢゝ
寺院ぢゝ
十月十七日
一十月三日或両三士　四名ぢゝ石川山通ぢゝ
ぢゝ
スッポウ　ダンブクロ　ぢゝ

總衣を着或ハ頬冠リ詰襦袢の人あり ケットを不纏もあり陣笠を冠るもあり
其人様の異ナる事思ひしの如きなり 兵器を携るハ一人も無く皆ち刀無帯し
草鞋にて行列を不整勝手に歩行せり 髪ハ元結を取山に甚ゝ少なけれ僅に
斬髪する者ハ僅五六人見へたり 皆ち数寄屋に上下ス 曳人 四五人ありて舞台に出
ニ手ノ三千侭也人已追而先不孫勤橋迄行進ゝ途迄なる人化之者人足下賃之
其家僕ある者あり しまの ○又云都築ニ行も出張の節記録ゝ前度新造故望
を戴り残し至明迄も訳後文ニ出ル事等の致死の人ゝ遣背抔送りありし
死骸ハ四方へ焼ゝ分くる事之と云 右之一人ニの死骸 サ七違ひたりアバケ抔へ行
人多し小歌抔唄ハ深きを行もありし隊長らしき人ハ一人も不見よし
一我兵隊ハ新発田ゝ到り集結ゝ帰休ゝ命を蒙十六十七両日ゝ舩ゝ乗組新潟
着九日ゝ一同帰宅なるへし其内無役船頭無事横浜ニ空砲を発し関東ニ揚て帰

旋そる事ら又勝時ノ声気ニ行事宮謝ゝ倣て祝砲ヲ発す聞及ひ鳥兵ゝ皆あるこや
一ニ保ニ千余ニ病剣ゆへ是ならよし
一熊倉ゝ戦の事其ゝ詳説を不得和ゝ我鉄砲隊勇ゝて戦ひ合ゝ手傷あるて苦戦ある
ゝに我鉄砲付て行ゝ戦ニ手傷多く倒て敗れんとする所柄拄隊之を援助せり
藤井ハ隊の隊長にて進ミ来にて彼我混戦ニて互ニ離く一賊近く来りたれ
を味方と思ゝてゐる銃口を押附されく近く寄りて藤井ニ発砲し是ゟ退きて云
ゝる内又前島ニ当ゝ額頭其他ニ近ミたるニ一賊近く来りたる故柄拄銃にて
以て之を突ントスル時ニ観て前島其ゟ仙道彦八郎之殺害されんとする故援
引て之を放れハ若仙道似てれえ耳の音すると附たれハ正に敵なる故直に
進て突伏ゝる賊必死を極め若き故ト相死スルを甚信ト見ル隊長ニ
西原近く追来りたり柄拄の如きくハ前島も藤井の如く討たれし究

ことなし 又[illegible]の地ニ[illegible]一[illegible]の[illegible]

下ニ挑灯の[illegible]を[illegible]して[illegible]

[illegible]北征ノ[illegible]小隊[illegible]其外の士官ヲ不[illegible]して

[illegible]一小隊

[illegible]

[illegible]中隊[illegible]

[illegible]

[illegible]士官学校[illegible]

[illegible]兵制[illegible]術[illegible]ヲ以テ士官の学[illegible]兵士を引

[illegible]中隊[illegible]

[illegible]

十月十九日

一 北越大総督仁和寺宮ニハ凱旋[illegible]

一 於越後新発田御本営従御総督府奥羽越[illegible]賊降伏[illegible]

[illegible]兵隊帰休[illegible]十五日[illegible]日

一 日光[illegible]道中[illegible]一同[illegible]凱旋[illegible]

[illegible]

[illegible]大砲を[illegible]

[illegible]凱旋[illegible]

[illegible]大砲ハ[illegible]

一 或人新発田[illegible]

一 [illegible]凱旋[illegible]東京[illegible]

[illegible]近年の[illegible]

会度従駕ノ日ハ
以上ハ袴以下ハ壱岐
宮細袴ノ行装
タルヨシ

一所為之故ニ新発ニ到リ候所 致士十五人一巡回罷出ニ五人程御供仕候

　　　　　　　　　　　　　　　之北征ニ従ヒ候所ニ而古参之候故 致士モ五人ニ限ル哉

　　　　ニ候也 先年ヨリ数多居候ニ付

多分ノ宮中ニ移リ已ニ而新発ニ付テハ又一部ノ御用ニ供スル

富有ノ兵制ヲ分ケ又ハ無之ニ付 杜撰ニモ之レ故宮中ニ御通知

又北征ニ付テハ士卒ヲ直チニ進ラセ候所ニ宮中ヲ後ヘ兵士ハ

之ヲ以テ一騎当千ノ別段ノ兵士ニ可勝ト申様ハ其勢ニ有之

トノ事ニテ東京新郷ヨリ来ル諸事仕具運輸ノ有テ所謂要害ノ事ニ候ト云

此度ハ深ク番兵ニ従ヒ新発ヨリ征中ノ例ニ有之候事

一前田弘務役侵已ニ新発ニ而進行致シ候所ニ出テ候隆壬四人

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　奏上ス

新発ヨリ進発ト云

一今津ヲ通リタル脱走兵ハ水戸賊ヲ攻撃スルニ大ニ水戸ノ侵ヲ殺タルト云風聞

アリト云 例ノ古参従ヘシ其下ニ今津ニ脱走兵賊ノ行方ヲ尋ネ居リシ由

一北越戦記ハ出版ニ而以来 雲山餘行貝 并ニ余ハ除 薬師山嶽陽ノ山妙見ニ而作生ル流刑ノ残兵モ長岡

ニ復シ去ル所ノ新発ヨリ移香モ別ニ死傷録ニ従ヒ人名ヲ弘報ヲ出シ来リ見候ニ付七ツシ

不ノ之ト云

十月二十日

一十月六日北陣ハ川口ニ在リ文ニ而飯着スル由所報ノ何事モ承ル所ニ候

一同晩大砲隊士三人　金沢二郎　雲母 健夫　久保平三郎　久保新之進　従士六人飯着スル由

一東郡知縣ハ京都ノ御用出張ノ来大熊牧政 草間ノ朝出立ノ日新発ニ向フ由

　　　五日

　江戸ニ而モ一同ニ通知スル事ニ達スルナラント云

一前日兵制士官　鎌原龍太郎　吉野卓太郎　磯田良太郎

　学校兵学係　田口伊之輔　草間三郎　小松作左

　業ト係　小山田順治郎　山本藤太郎　玄田秀英

　　右ノ外　井上権之進　三次元郎

一昨日之ヲ使ハ水戸賊賊手ニ臨ミ東京ヨリ備前勢モ討手ニ向ハル由本當

ニ銭ヲ散弾ニ代用シテ官兵傷ヲ負フ者多ク又地雷ヲ用テ防ケリシトテ云々

攻方ハ為ミタリトカ云未有傷之新着ハ其ノ所ニテ来リ進シ来リ飯着人ニ而含ラ云

ラ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 茶澤ヲ説テ降伏セシメタルハ錫島藩坂田清ラント云

一 金三ホハ昔ホシ若松籠城洋川、二日新潟ヨリ四日帰国此ノ間止今叶テ
是迄川舟ヲ下ルナリ
ノ事ヲ以テ速ヲ思ヒ急ニ旦運ヲ為ント故陸行セシ為メニ
其由ヲ聞ク所ニ拠ルニ敵ハ新潟ヲ守ル者ヲ以テ
ヲ以テ列ヲ二ノ如ト称シ言ヲ作ク
シ置ケリ ニシテルボンノ作業ヲ

一 西郷云会津藩錦ヲ云ハ物ヲ引薬ヲ云ヒ物ヲ
皆吸ヒ為ニ徒ヲ云ヒ三四裂ヲ洋川ヲ而
ライフル砲ヲ称シ稿ヲ
ヲ一門持行タリ アルムストロムヲ唯銃ヲ
ムレトロムハ手強ノ石ヲ以テ

一 第私城中ノ形ヲ能ク有ルヲ以テ
一 ヲ田逆箱ヲ人ヲ伝ヲ由ヲ
一 金津侯ヲ桃ヲ
一 ヲ田ハ弱ハ已ヲ引ヲ
一 小田原七万石ヲ家名ヲ建ラレタリ
一 九月二日無名義ヲ事ヲ問ヲ而ヲ兵ヲ放ト
後ヲ乱ヲ敗ヲ死ヲ引得サレ
ヲ一ヲ
一 海野甲長 竟男遂ニ死タルヲ死後醫等其疵ヲ割テ視タルニ腹ノ骨數箇ヲ砕ケ焔毎

十月ニ日

維新戦之始末
元寇陣中日誌
ノ増見始詳ナ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

十月六日

貴ニ江戸麻布ヨリ下金程ノ道、隔テヲ以テ部ヲ設ケ浮習ナレモ痛ニキ
一 越後柏崎官軍行、每ニ三ヲ以テ役ヲ定ム山岸半次ト申ス者ヲ以テ
官人ニ添ニ長吉ヲ以テ大隊ニ従ヒ進ム又後手ヨリ附ク浮服ヲ両手編ニシ脚ヲ例ノ杜
撰之故生者ニ向テ叶征ヲ祈ル異ニ云ヒ不
祥ニシテ死者ヲ行ル葬ヲ以テ即チ進ム行列調ヲ備ヘ
一 近日北越ニ有ル兵隊ヲ以テ官兵ヲ称ス乃五日ヲ以テ只銭ヲ
受ケ官ヲ云ヒ為ニ命ヲ致ス者ヲ以テ也ト云ヘリ

六

官兵寺御治　御本営ニ於ル　発様　御目見ニ部屋ニ立ル
一 此度賊徒追討ニ付テ色ニ其方感佩ノ至ニ候依テ弥ヲ以テ
豊家ニ於テハ面ニ家禄ヲ多ク賜ハル者ニ候間申上ル旨ニ於テハ
弥ヲ以テ戦功ヲ抽ンデ速ニ東京ニ帰ル可キ旨ヲ
兵部卿宮様ヨリ被仰渡ニ付テ拝領ニ仰付ラル者也
一 大総督ヨリ諸藩ヘ達
戦争ニ本営ニ罷出ル者ヲ始メ人数ヲ減ス可キ旨ヲ
右ニ御届ケ帰国ニ付テハ
一生懸命
是ヲ以テ冷ニ家ヲ守ル者ニ於テハ
少ク年ニ
官ヲ以テ速ニ帰ル可キ旨ヲ
兵部卿宮

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

上兵戦候其大急之利ニ而労不寄之間何太儀ニ候得共 宮ニ而 御論之ニ
而為 思召候之 錦旗を 御付義相と被下候得共此上ハ寄力為之有之
候ハ 御免之事

右之趣者御上陸ニ而上下相迎候引退下ニ錦旗御立
但シ 宮様ハ 錦旗之御上陸ニ而御待之宮 御着座之所ニ而ニ召も之候
右之趣ニ而御上陸ニ而御加勢之様之由

此時奉之東北者不少ニテ唯字数映保詞ヲ獲タリ河理ノ千里路口夜備 錦旗ニ付 候也 錦旗
分一二里近ヲ帰リタル由且所為ノ今後七所之人ニハ 賊ハ丁引ク労有リ気ニも非ス共ニ幸之ト云

七 行国富進 従北越新発田高家厳書 戊辰十月十四日付 同廿五日達
越後柏崎会津開城降伏ニ相成候先月十八日高田村ニ集之賊追討ニ相成右歟
二手ニ別レ逃去一手ハ日光口田嶋ヘ逃走一手ハ八十里越之方叶津村息ヘ逃去ト申今降伏
之由若松表役田嶋之方ヘ申唆し候罷越トハ叶津之方ヘ逃ハを官軍不知故今隊
之取ナ唆しも多ク少モ叶津守備之加州今降伏之由甚之油断致居ヲ巡邏付候
等もなく兵ヲ出ス処を窺ヘ賊夜中加州之下陣営取巻僅ヵ四人鎗ニて局
陣ニ突込ニ付不意故大ニ周章致シ家々逃去し処外残ヲ固之奴原ニ二三人
三ヲ討取故余程我将人即死ホも有之 二小隊之小銃并大砲取大砲四門其外
小荷駄等分捕等同し由兵ハ 飯山之遠高嶋皆不意をら討小荷駄兵粮
玉薬を分捕叶津ニ能守河口村と申所迄六七里程引取廿六日又之河口村味
方敗戦とも可及様子ニ付廿七日今議所ゟ河口村應援 丑第七番 一ノ瀬隊兵士

途有坂下宿出発都津と申所に宿陣仕候処賊何故哉
河口村引取候名分又と大塩と申所迄引取候由兎や角申て先ず如斯津宮後田嶋と
賊大凡一叶津と方へも別を以て遣す後田嶋より又叶津村に在賊十余人叶
賊引取官軍に降参謝罪願出候に付安心仕候野原宿陣引取候
か申通有之候に付十月三日沼澤村七ツ瀧谷宿陣四日天屋止宿五日野原宿陣
仕候薩長越前加州大垣彼等田富山等四小隊五小隊或は八小隊と
ろ申し攻兵共仰付残りの処 御家より義兵一先帰休被一追て仰付
候間可有之間 御服下賜の事に付当地引揚六日野村宿止宿七日津
川宿陣八日同所宿陣九日津川出立米倉村に宿陣十日米倉出発彼等
城下に着仕候処当日雪降遂に心強く
ろ申候間二ノ瀬迄引取候 二ノ丸の本丸迄御見仕候処 実に五万石と候ニ
堅牢橋等と数ヶ所有之余程堅固と見受申候 江戸城と鳥丸
桜田と如く見付等も数ヶ所有之相当と嘸と
御本陣菊之間彼等四條殿山階宮西園寺殿等は程近
泉宿へ引移候 宮様は後燒何ら
階堂と申本陣へ官軍充満候 北条等町そつ迄
屋に寄泊松枝城川吉村藤ノ城下桂山内村ノ階
当改正次第と諸家往来と道中止宿被仰付候 十六日藤長女外
ノ階宿泊候 十五日物と数
知之藩邸に 十二日道中と当月十六日
私共十六日と由に 新潟会所ノ
鳥海後多加茂等海と 十六

於済ノ馬喰町ヲ得込ニ悦ニ罷在ト相昇平ニ及ヒ 御当家ニ於テ戦ノ勝利

益々数陣ノ戎装ニ異人姿 スッホウコヅボン足ニ沓頭ニ シャッホ 冠ニ唐人

ニモ是迄ニ無キ風俗前代未聞ノ事ニ候ト為ル可異ニ可有候ニ無之事ニ候とも可驚廻し

其称ニ至ル摂政ニ御座候 相和ケ致シ候ニ付萬端ニ候事未曽ハ隠ニ致ニ候

ニテ先ハ不取敢御書ニ候 乱筆ヲ御推読可被下候

十月二日

片岡高之進

西嵜君膝下

一 新発田先君御隠居 当君ハ御年十三才ニ罷成候

一 新発田ハ實勤 王ニ而有之七月中米沢仙台会津三家横領シ七月廿九日ニ

城明渡シ君侯米沢ニ人質ニ相成候所驚ニ候余程在ニ付テ候事相成候退 此節家中之者浪人ト相成候者多ク候由

一 相成候後御領分百姓共米沢へ君公ノ事相迩をも承候処ニ付寺院の諸士を

撰立五千人も集リ竹槍其外得道具を以て市中へ集リ騒動ニ依て

米沢人数百姓ニ取囲マレ退散君侯御帰城ニ相成候ニ付百姓共静リ又

ニ寺鐘撞候ハヽ百姓共早速集リ候様ニ致置候ト説ニ御座候能く

士人ニ勝リ候ニ付実家老遠山某乃息子隠居ニ而見難ク枝出兵隊ニ差出候事ニ付御咎ニ而多分

伏罪又ハ切腹閉門慎ニ被仰付候一昨日 御免ニ相成候由ニ御座候

一 長岡臣勤王稲垣平助 朝廷ヨリ民政局ニ 仰付ラレ勤メ候由

一 長岡城御預リ加州へ被 命候由

一 若松守兵越前新発田大垣ニ命ト

一 若松城下拾万石加州へ御預リ被命ト

副書

手紙ニ而鍵ヲ許シ以来八郎共ニ先年今十五七三 先年有之十六日

砲術當作錄隊

(八)在甲府依囚生十月九日書状

先達申上候東京　行幸御着輦ニ可相成ハ今月初旬ニ右ハ今月初旬の甲州
百澤宿ニ於テ源八度得ニ乗御着輦ニ可相成ハ今月初旬ニ右ハ今月初旬の甲州
落候高慶ニ於テ上村源八度得ニ乗御着輦ニ可相成ハ今月初旬ニ右ハ今月初旬の甲州
存ニ付テ別紙ニ書記ス十一二の此ニ譯

謹次第

依田謙次郎

甲州武田家浪士着操練ニ依テ東海道　副御役智ハ　御汚名ニ
有之ニ付砲術調練ニ後着京濱ニ而ハ西國の諸藩ニ申訳ニ
ハ無之ニ付ニ引仕ル

九 又 十月十七日告

濱松 掛川 田中三萬石徳国ニ所替ヲ
掛川萬一両日以来不残引揚ケ相成ル其外沼津横須賀 相良ヲ所替ニ
相成候何国ヲ末第ト
不定何国ヲ末第ト
十日十七日迄

一 此節徳川家ニ奥州ニ而ハ一揆ノ場ヲ一ノ場ヲ由若然ヲ而諸藩移封多ル可シ
然而徳川ノ為大ニ奥羽ヲ之ノ収ムルヲ
其ノ ヲ

謹次郎

十 会津舎ヲ哭説ヲ戯歌

夫良将の籠城セルや若孛徠不叶時ハ切腹ヲ兼ネ其初ヨリ心ヲ決シテ生ル事ヲ人々皆ノ主ハ元数代の爛
漫の大家ヲ子孫ニ高楊ヲ好智ヲシテ得利ヲ為事務者ヲ不当主ノ孛ヲ好智ヲ如無ヲシテ高利ヲ
為ル代高等ニ賛高ニ子ノ者大勢ヲ諸道ヲ出シテ異行掠奪セシモ因之 朝廷官兵ヲ発シテ追伐
ヲ加ヘ数月ノ攻囲 双方死傷ノ者多メ一命ヲ各ノ主唯次命ヲ利為事務其身ヲ不計忠義ヲ不知之所為成ル
ヲ以忽潰敗シテ已ニ官兵迫ル会ニ 面縛シテ陣出頭之代商ヨリ同シク当為助命ヲ乞ル此時
ニ尚武将ヲ以ヲ人ハ城人ハ石垣ヲ以ヲ其ノ古事歌之心得ヲ有ル者ヲ或ハ力ヲ尽シテ城ヲ明渡シ以テ近古備中高松の籠城水攻ニテ後兵溺死ヲ以テ城将
ヲ自刃ヲ以テ城ヲ明渡シ以テ近古備中高松の籠城水攻ニテ後兵溺死ヲ以テ城将
ヲ自刃ヲ以テ城ヲ明渡シ以テ近古備中高松の籠城水攻ニテ後兵溺死ヲ以テ城将
ヲ自刃ヲ以テ城ヲ明渡シ以テ近古備中高松の籠城水攻ニテ後兵溺死ヲ以テ城将
ヲ自刃ヲ以テ城ヲ明渡シ以テ近古備中高松の籠城水攻ニテ後兵溺死ヲ以テ城将
最初ニ所戦ニ加キ心得ヲ以テ故功ヲ賞シテ後兵ヲ助命ヲ其ノ例ヲ以テ
痛シ命ハ惜シ丈ケ之事ヲ思ヒ不実ヲ陥之者ヲ非隊将シテ代商ル人ハ其ヲ加腹シテ之助命
ヲ乞ル事ヲ一ヲ不思ヒ然ル後方今ニ後ニ寛大ニ成ル御処置ノ有難ル人ハ如何ニ一ノ和成ル微臣之者

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

之所知ニ非とい(芝高志)を初め出頭の代高牛を、厳刑ニ不ル処ハ不可看ニ者不然時ハ猶天下如彼
ニ役高絶ニ至るといふべからい傲慢ニ試ニ企及逆ニ出ル不可計知若然ル時ハ何ぞの時ニ昇平ニ
復すべきや思ニ是ニ依テ愚按ニ修補其所ニ出ル事ニ依テ俗書ニ者ハ馬鹿の
ごとく條舎のあるごとく
金洋ニ至ル(ろくたう)高やめて寺ニ(ろくそう)勧ル若シ命ニ
ごとくニ而ハ敢テ遵ハのごとくニ至るまであ
あゝ八天下ニ取ル及逆ニ至ル而ハ
ニ有ル銭純ナル成ル方ニ依テ
(ととのふ)ニ整ル事ニ而ハ海ニ誇ル所ニ
金沿の仏を神(紙)る様ニて上ハ寄札下ニ金(コンガツ)札
一文銭ハ十二文 (トコトンヤレ)四文の銭ハ十六文 (トコトンヤレ)真田の上ニ文石ニなる (トコトンヤレ)
三十ぢやらぐ百ニ而ハ十ぢやらぐ七拾二万が丁度よろ (トコトントンヤレトンヤレナ)
此ニ数ニ依テ
(一)松本領舟示し
神ニ芝俊宗門ニ俊舟移ニ中出有ニて山得共五人組ニ名論苗字ホニ不相成都ニ雛
形通ニ諸ニ格ニ所ニ決ニ而ハ得ニ意ニ而ニ以上
十月七日

東京藩邸下賜

外桜田新橋の屋敷田所地續德川家用屋敷并芙蓉
赤坂南部坂の中屋敷澤川小松町の下屋敷共の額一通下賜

十一月廿日 辛酉 晴

十

一 京都御馬御用所并諸藩建家之儀ハ三條通大宮西入二條御馬所ニ集會
但十日ニ一度宛會議

一 人馬之儀ハ御用通行出兵等限り勢ひ多用ニ付其節ハ
一切其地ニ而雇入

一 諸藩ニ而ハ人馬之用ニ差支候節ハ御用状ニ認め御馬所ニ而ハ
其筋ニ而差出ス事

一 諸藩ニ而ハ御用状ニ認め御馬所ニ而ハ
右御用ニ而ハ勿論之事

一 宿駅馬数ハ一切其地ニ而雇入候事

一 宮堂上方ニ而ハ其地ニ而雇入候儀ハ勿論ニ候得共

之旨聊被下置候格別紙写之通為相願候所
被成下當人拜謁被　仰付格別之業　御慰労御褒美金頂戴飯國後今
日迄專ら滿用相辨難有仕合奉存候然右同人義ハ別紙写之通康之孝願置
候次第ニ付信濃守之傳役兼侍讀滿内事務參與為仕候人物之者ニ候得ハ
日下必至差支候次第ニ候得ハ重々奉恐入候得共
被　免候下置候様一向可奉嘆願旨信濃守津付越候ニ付
十月日　　真田信濃守臣
赤澤助之進

東巡日誌抄　明治紀元戊辰秋九月

先般　御親諭被　仰出候通億兆　御綏撫被遊度深キ　聖旨ヲ以テ東京ヘ
行幸被為成治道水火災害ニ罹ル者ノ厚ク賑恤被遊等老及ヒ孝子義僕ノ顕彰
業出精等ノ者廣ク　御恵賜　御褒賞被為行洵ニ曠世盛擧ト左ニ記シ徧ク天
下ニ布告ス

明治紀元戊辰秋九月二十日辰ノ刻　御出輦車建禮門ヨリ　御首途後院御
所南ヘ堺町三條東ヘ入リ頓路青蓮院宮ニテ御休息之　御膳ヲ奉ル　山科
陵（天智天皇）ヲ　御遥拝奴子茶屋ヨリ走井等御小憩未ノ半剋大津驛ヘ着　御
宿
廿一日　御行列次第　　昌
御道筋府藩縣ヘ御沙汰書寫
今般　御東幸　御道筋ノ式内諸社ヘ官幣使被差立候ニ付神祇官御用掛リ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

ノ者ヨリ相尋候候而モ可有之間右神社有之薗縣ハ其最寄ノ御油驛植松少
將方ヘ役人差出候事　九月
一追テ御道筋ノ府薗縣ヘ次第ニ通達可有之事
一孝子善教ホノ御褒賞ハ二千正以下二百正以上有差異
一年七十歳以上　二石宛　八十歳以上　三石宛
其方共長寿致レ奇久度事ニ候依之右之通下賜ス
明治元年改原ル

二十一日外ノ刻　御出輦順路膳所ニ御着本多主膳正康穣郊迎シ御鞭五
十本ヲ献ス鳥川及ビ月輪御小休ニ御昼ノ御膳ノ奉仕ハ池田大小両橋ノ小堺ニ
琵琶湖　天晴見ノ設ケアリ　松ノ木御小休申ノ刻石部駅　御着輦
一石部驛前ニテ宇和島宰相稼穡ノ艱難ヲ知食サシメン為メ路傍ノ稲植立

君ならで七五月の雨のふりそそぐ稲の穂一穴ヲ雑ユ　恐ユ上御聞見被為遊深ク御感然被為在候
宇和島宰相詠歌　宗城

一廿二日快晴外ノ半刻石部驛　御發輦手原村御小休水口驛御昼加藤能登守
奉迎シ柳行李一ツヲ献ス来ノ半刻土山驛ヘ　御着輦此間　御誕辰祢供奉
一同所ニ晡宴ヲ賜リ土山驛ヘ酒三斜及鯛若干枚ヲ賜フ
妙感寺ヘ　勅使ヲ以テ左ノ通被　仰出
權中納言藤原藤房
汝當元弘之年效力　皇堂至忠惻怛千秋之下使人景慕不止近江國

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

妙國寺汝之古跡近接東巡之道追感殊深因為慰汝之霊魂遣使右兵
衛権佐藤原基正賜金幣　宣

明治元年戊辰九月廿二日

御布令

制札取除之儀先達而御差図ニ相成候処今度 親覧 叡覧被為在取
除候ニ不及旨 宸断ヲ以テ更ニ被 仰出候早々掲示可致様 御沙
汰候事

九月廿二日

追テ御道筋ノ府藩県ヘ次第ニ廻達可有之事

夫久英事話　十月廿六日来話記

一 若松攻城ノ時城ノ後方正南ハ闕テ不圍巽坤ノ両隅辺ヨリ三方八寸隙モ不餘要圍ヨリ発砲セシ但シ領
行タル大砲ハ城後ノ小田山ト云テ常ニ人ノ登ル所ヲ登リテ山上ヘ軽登セシ肥前末伝ノ砲ヲ併セ十門ヲ並備タリ
此外城下ニハ日中ニ在レドモ本城ハ老樹森々タル中ニ唯天守楼ト城楼二ト二ノ丸ノ門ヲ見ルノミ故
ニ此四門ヘ照準スル所ハ唯城ノ中心ト思フ処ノ深林中ヘ発砲スルノミ此三楼ノ門モ弾丸屢壁ヲ穿ツ実ニ貫ク
ノ如ク弁移タリ 初九月十三日夜半過 即十四日暁 ノ発砲トナリ十一千門許ノ大砲乱発弾丸ハ信火ヲ引テ
飛行スル事宛モ織ルガ如ク加之焼弾連発シテ以テ実ニ凄シキ光景也 諸所焚焼弾ハ
用ルコトナシ焼弾ハ発スルナリ肥後ノ兵ハ 火矢ヲ放ツ 火矢ヲ放チ数タレ共焚焼ヲ放ナシ直
射入ル弾丸ヘ効験ナク未ダシテ二砲ホレ御座ノ砲弾不絶ヘ効モアラザレ故唯二十寸砲
ヲ撃発セン焼弾互効アラン故此二十寸砲二十門許モ有之レ其ノ時前後人ヘ高ルハ此未タ破
裂スル剣傷セズト云 日攻方ノ砲銃如斯盛ナル二守方ハ本城ノ北ニ唯三門砲ヲ発ス尽シ

○諏訪[illegible]地雷ノ工夫ニ依ツテ砲台ヲ築キ射撃シ後ニ地雷ニテ[illegible]正面ヘ大ク砲ハ[illegible]
ト[illegible]ニ付之地雷ノ西ニ[illegible]テモ[illegible]之ヲ攻入ラント[illegible]終リ地雷ヲ攻ムル事ハ不至ト
テ守備[illegible]シ○地雷ノ東郭ニ一隊ノ勢備ヘテ[illegible]持場タリ○地雷ノ北面ノ東郭
（一番砲台ハ城内ニ在タリ）
[illegible]口ニヤノ辺数ヶ所ニ攻口[illegible]此郭[illegible]兵改メテ城内ヘ毎夜付セテ砲撃シケレドモ[illegible]
（是又砲台ヲ攻不タナルヘシ）
左右[illegible]後ノ砲[illegible]○[illegible]後ニ初メ城内塁壁ハ[illegible]テ数人ノ通道ヲ穿テ[illegible]
回シ往来シ[illegible]故[illegible]丸ハ数十年ニ○主将ハ二ノ丸ノ門ノ石塁ノ間ニ弾丸ノ不通
如ク其外ハ[illegible]積テ固ム其内ニ[illegible]臥[illegible]サレタリト見ヘタリ○毎夜城外[illegible]
如何[illegible]タル城中一点火ヲ見セス兵器ノ煙モ不立実ニ寂々静ニ之故夜中
ニ砲銃[illegible]的発射シ○城中火薬[illegible]又小銃弾ニテ[illegible]薬庫[illegible]蔵モ[illegible]
[illegible]伏スル所攻メ○西北郊ニ火薬庫
三ツ[illegible]何レモ[illegible]ニヤ火アテ皆焼[illegible]焼タリトモ云トモ城兵ハ自ラ焼セル由

其[illegible]深サ三乃至四尺ノ穴トナリ又石垣ナル一ト三四尺ノ[illegible]ノ砕ケ二三町ヲ[illegible]山上松[illegible]
[illegible]アリ人[illegible]ノ[illegible]アリ又[illegible]近辺畑ノ土[illegible]
又砲弾ノ[illegible]ニ[illegible]○又西郭畑ノ中ニ大小火薬製造所[illegible]八月十日[illegible]
[illegible]本[illegible]小屋三棟ノ[illegible]ハ[illegible]備[illegible]十日[illegible]
[illegible]城下ヘ迫リタリ○先[illegible]城下ニ入タル白川口官軍ノ乱暴[illegible]如ク[illegible]城下ヘ到リタル時[illegible]町ニ[illegible]
[illegible]故是[illegible]故其[illegible]何[illegible]者[illegible]云ハ[illegible]根ニ[illegible]
[illegible]白川口ノ官軍ノ[illegible]ノ[illegible]タリ其[illegible]物ハ[illegible]家ニ有[illegible]
ル[illegible]近村[illegible]ノ[illegible]押入[illegible]物[illegible]越後路[illegible]押[illegible]二章[illegible]
セル[illegible]軍令[illegible]ナリシ[illegible]本営ト[illegible]下[illegible]城下ヘ[illegible]民一旦[illegible]
ル[illegible]荒リ[illegible]付[illegible]ニ[illegible]具[illegible]見レハ一物モ不[illegible]
[illegible]城下ヘ行キ[illegible]軍[illegible]集[illegible]ハ一日シ[illegible]不[illegible]

此沙分我後口ノ矣ノ陣ホ大ニ憤悪シ二夜城下深辺ニ引上ケ
大谷浄祝ト打ち大事ノ生死ノ勢之ヲ外ニ東口矣隊分隊ノ流ヲ先ノ和順合一
ノ為ニ立ツ可キ処ニ至ラス我后ヲ出タルハ一ノ途ナルヲ以テ備ヲ設ケ
右ノ如ク楔矢棕ヲ極メ後ニテ千ノ外ヲ以テ設ケ言旦思ヲ留ルヲ好ク存ノ縣
心設ケラル可キ而当座警ノ内設ケノ七ドリ之ヲ
一 初洋川ヲ我雷風流砲隊ニ番大隊ニ指北テ進軍セリ一ノ矣隊ヲ集分候ヲ事ヲ以テ
近去タレハ一先ツ引揚ケテ時ノ事ヲ以テ時ヲ以テ山路ニ隊ヲ以テ
備集松尾ノ馬廻芝我ホヲ以テ条砲スルトヲ以テ
ル旨ヲ得ラレ度ヲ以テ打ハ有ラン事ト云ヲレニ実ハ原ハ頭上ヲ飛ヲ
渡ホ松尾ノ隊ハ雨ヲ以テ浮セリトノ以テ
ニ於テ方ヲ以テ今ヲ迄ヲ以テ

徒ヒヲ二切不ヲ以テ洋川ハ生城ヲ以テ矣後戦ヲ以テ備ヲ後山中ノ立迄ル
ヲ以テ我ノ方ニ走ルヲ以テ笑ハ四方大隊ハ分ヲ
ヲ以テ洋川ノ云ヲ如ヲ分候大隊ハ矣ヲ以
有ルヲ以テ迷ヲ成ル敵隊分一時半後ル以テ戦ヲ終ル体ヲ方ヲ以テ
以テ迷ヲ故実ヲ以テ ノ如ヲ以テ
思候迄ヲル如ク以テ備ヲ宣ヲ以テ墨ヲ
判浮ヲル故ヲル以テ大隊ヲ
一 洋川ハ柳津通ヲ以テ近ク賓ハ賊設胸壁ヲ歩ル前迄ノ実ヲル其深敵ヲ砲ヲ
ヲ実ヲ以テ路ノ如ク陥ヲ以テ以テ
ヲ以テ敵ヲ以テ堪山ヲハ尚易シ者ヲ岩石山ヲル
一 賊砲銃術ノ精ヲ実ノ敵ヲ可ノ砲ヲ以テ
ヲ以テル力ト云ハヲ以テ又砲ヲ以テ我ハ柳射スル以テ

乍ら其の用心勢支流れ勢ひ猛くして又四ツ這ひ
りにて登りて行く程に大将軍の後ろ
ゟ鉄砲を打掛け追ひ詰めて攻め取らんと
勢定めて却て本丸より出で戦ふ時は小椋山の敵
敵に成る程に身方の勢ひ弱く成りて
一宮様ゟ大将の方へ御使者を以て御申上
候は是迄御出馬なされ候へ共御身方
敵士押の上に成り候間ニげつゝ御退
候へ共人数ばらばらに成りて御供
仕る者も御座なく候間御身方
一或人語曰く信玄の軍法に冷泥飯と云
を得ざる時は此の飯を喰ひて士卒を励ます
戦士押の上に成り候間ニげつゝ御退
候へ共人数ばらばらに成りて御供
仕る者も御座なく候間御身方

一戦士陣の上に成り候はゞ一人も残らず
討死仕候間ニげ候は恥辱に候間
遠き程能く候へ共敵味方近く
一宇喜多秀家の勢五万余にて備中
一宇喜多秀家の勢五万余にて備中
一長州大名毛利甲斐守殿御家中
第一の上也と定めて御申候

下ニ等ヲ拝ス之ヲ在リ先キニ其ノ勲ニ依リ
ニ進ムヘキ者ニ非ス故ニ其ノ勲ニ依リ
ニ進ムヘキ者ニ非ス故ニ其ノ勲ニ依リ
ニ進ムヘキ者ニ非ス故ニ其ノ勲ニ依リ

一 戦後府知事小参事ノ停廃ニ付テハ人衆ニ因リ
ニ進ムヘキ者ニ非ス故ニ其ノ勲ニ依リ
ニ進ムヘキ者ニ非ス故ニ其ノ勲ニ依リ
ニ進ムヘキ者ニ非ス故ニ其ノ勲ニ依リ

一 近日風雲将ニ動カントシ兵卒ヲ募ルニ
ニ進ムヘキ者ニ非ス故ニ其ノ勲ニ依リ
ニ進ムヘキ者ニ非ス故ニ其ノ勲ニ依リ
ニ進ムヘキ者ニ非ス故ニ其ノ勲ニ依リ

一 十月六日北征兵隊凱旋ノ儀ニ付テハ
ニ進ムヘキ者ニ非ス故ニ其ノ勲ニ依リ
ニ進ムヘキ者ニ非ス故ニ其ノ勲ニ依リ
ニ進ムヘキ者ニ非ス故ニ其ノ勲ニ依リ

ハノ法即高正幸合ニ利ヲ失ヘリ其他小隊司令ト副長ト
二所ニ三獨撒ト大隊旌ト二所ニ三ノ大隊ノ兵数ヲ一般隊ニ
大砲ヲ徒軽ヲモ二所ニ集営一ノ如キ法ニ定ムヘシ
一 徳田使役 陳中ヲ通ヒ号令ヲ一般ニ徹底スヘシ
一 翌朝ハ法九時集合ト云 天機窺フヘカラス御条規ヲ厳守スヘシ
一 伊恵裁判所ヨリ大総督ヘ報告ヲ終リ後ヲ以テ
採用セラルヘキ事

従奥州凱陣總軍行列帳

大

物見之軽一人　使役津田源七郎
物見之後一人　使役高田豊之助
司令機川賢之助
司令加勢原三四郎
小頭　小銃之後十六人

物見之後一人　使役玉川淡　司令加勢　荘津常之助
小頭　小銃之後十六人

小銃之後十六人

相伍　世話役
鼓手　世話役　弾薬箱弐荷　日付堀田速見　調役中村才太郎　半切付之人　合持之荷

物見之後一人　使役玉川淡　司令加勢　荘津常之助
小頭　小銃之後十六人

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

押伍世話役　弾薬第二砲　同付後迄左太郎　差遣ス人
数多世話役　若干人

物見差遣ス人　三　使役桜井佳人　同ク吉村九織　同ク加勢寺田又蔵　差遣ス人
押伍世話役　弾薬第二砲　同付後迄憲蔵　調役二平川甘吉　差遣ス人
数多世話役　若干人

施條砲　運夫　差遣ス人　大砲方大嶋直之進　弾薬長特武稼　若干人　施條砲　運夫

大砲所従士　清水宇吉　大砲方宮下欽次郎　弾薬長特武稼　若干人　施條砲　運夫　差遣ス人

大砲所従士　大砲方岩下章五郎　弾薬長特武稼　若干人　ボラード砲　運夫　差遣ス人

河口多助　大砲方関口勇馬　弾薬長特武稼　若干人　ラ井フル砲　運夫　差遣ス人
竹内又蔵　大砲方西村健夫　弾薬長特武稼　若干人　ラ井フル砲　運夫　差遣ス人

金児三郎　大砲所従士　小泉市二　久保砲之進
大砲方　東條順四郎　久保五郎

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

下筥ヶ出張人數凱旋御式帳

下筥ヶ出張人數凱旋之節次第

一十月廿九日人數赤坂溜ヶ組通鳥ヶ越ヶ順次を以行軍被ヶ馬喰町御門ヶ

陣場
小荷駄奉行 小嶋母里兵衛
兵粮

小荷駄ヶ
兵粮ヶ 調役 ヶ

下筥ヶ出張人數凱旋御式帳

頭小銃組拾人 押伍世話役
頭小銃組拾人 鼓手世話役 弥藁第壱の男荷山越市ヶ進 調役倉島弥兵衛 下男壱人

ヶ持ヶ 物見組壱人 使番岩越勘重 同人ヶ栢植彦兵衛 司令加勢内川謙ヶ

頭小銃組拾人 押伍世話役
頭小銃組拾人 鼓手世話役 弥藁第壱の男荷篠崎源五郎 調役大砲方ヶ

下男壱人ヶ持ヶ

若槻
弥藁 奉行 長谷川貞ヶ 調役 内川小八 大川ヶ 鉄砲方 隔成ヶ 下男四人

二行ニ列ニ而申事

但馬喰町宮門ヨリ先ヲ到着ノ次第ニ又歩使ヲ以テ

一ツ人数紙屋町木戸迄ノ到着ノ次第ニ又歩使ヲ以テ

一右ノ通リ御支度ノ儀ハ御出門前度々ノ相触ヲ以テ

可申事

但シ役屋ハ御覧有之ノ上ニ而可申事 万事法令ノ旨

一御人数大手ヨリ到着ノ上ハ見歩使ノ者ノ引分ケノ次第

一ツ人数大手ヨリ入大門ヨリ下馬御玄関前通リ席次

但シ人ごとニハ大門ヨリ着座ノ事

一席場ヨリ程近キ南側ニ役屋前通リ西ヘ行軍ニ而

一整列ニ立貝三声吹イテ順次ヲ以隊長ヨリ

一調相済、御役屋前ヘ参着 御出馬席ヨリ

但御用席ヘ御牀机ヲ居ル方ヘ罷出候事

二而其節ハ御長柄筆頭ヨリ

御用席ヘ御牀机ヲ居ル事

一用事ヲ御用ヲ以テ隊長ヨリ出張ノ用見以上

ヲ以テ隊長ヨリ出張用ヲ以テ

一右之隊長并御用見以上ノ人数ニ而 御牀机前ヘ

ニ而列右ニ平伏隊長ノ人数ヲ連 凱旋任候

労ヲ令感下 御意ノ趣ヲ申上次ニ 御用見以下組支配有之而

御意ヲ以組支配ヨリ人数ヲ引連 御前ヲ通リ

載ノ如ク列ス

一役屋ハ御覧有之ノ上ニ而可申事 万事法令ノ旨

一御人数大手ヨリ到着ノ上ハ見歩使ノ者ノ引分ケノ次第

一ツ人数大手ヨリ入大門ヨリ下馬御玄関前通リ席次

但シ人ごとニハ大門ヨリ着座ノ事

一席場ヨリ程近キ南側ニ役屋前通リ西ヘ行軍ニ而

一整列ニ立貝三声吹イテ順次ヲ以隊長ヨリ

一調相済、御役屋前ヘ参着 御出馬席ヨリ

但御用席ヘ御牀机ヲ居ル方ヘ罷出候事

二而其節ハ御長柄筆頭ヨリ

御用席ヘ御牀机ヲ居ル事

一用事ヲ御用ヲ以テ隊長ヨリ出張ノ用見以上

ヲ以テ隊長ヨリ出張用ヲ以テ

一右之隊長并御用見以上ノ人数ニ而 御牀机前ヘ

ニ而列右ニ平伏隊長ノ人数ヲ連 凱旋任候

労ヲ令感下 御意ノ趣ヲ申上次ニ 御用見以下組支配有之而

御意ヲ以組支配ヨリ人数ヲ引連 御前ヲ通リ

載ノ如ク列ス 隊長并ニ人数夫々ヨリ進ム事

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

御巡見之砌在御退引之事

但従者始終之場ニ在之人共御家ニ近寄之節ハ二手ニ成事

一御泊り之場所ニ而ハ御門外ニ番人ヲ置事

一遠在ニ而庄屋之家ニ御泊ニ相成候節ハ門外ニ番人ヲ置事

一御退引後陣長出張之節ハ門外ニ而呼越ニ及ハス事

一御馬ニ而御通行之節ハ門外ニ而下馬ニ及ハス事

一陣長之外ハ出張之節ハ御門内ニ而下馬ニ及ハス事

御陣笠下ケ場所

御勘定

西校術所

翻術所

御書頭

敏士

大鏡方

修撃係

陣場方

兵粮方

弾薬方

日雇付

大隊司令付

陣長

副陣長

軍事方

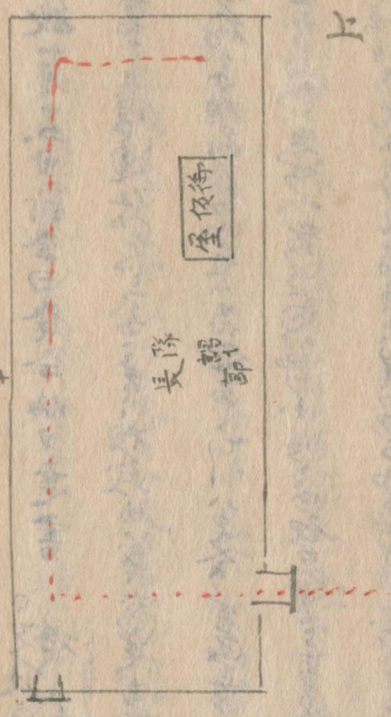
吟使書

御用付

書記

御医師

以上



国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

二十 武敏十月十五日新発田発会[illegible]日達書

[illegible]

上略 然ル処先達而[illegible]通[illegible]相残[illegible]定[illegible]

[illegible]相[illegible]八名[illegible]当新発田[illegible]

[illegible]仕[illegible]一同[illegible]

[illegible]相[illegible]

[illegible]人[illegible]是迄[illegible]

[illegible]先便[illegible]

[illegible]

[illegible]書[illegible]日夜[illegible]

揚迄ハ[illegible]

[illegible]進退[illegible]

[illegible] 十月十五日 認

[illegible]

二 武敏十月廿六日新発田発十一月五日達書

上略 当方諸家備人数ニ追々引揚ニ相成此分ニ而ハ何も淋しく相成[illegible]

数も不日ニ[illegible]一ヶ相成其節ハ上下[illegible]家皆共ニ凱歌を唱ヘ候趣[illegible]

一ヶ仕合[illegible]人を是より[illegible]皇化[illegible]

事ニ上[illegible]城下市中[illegible]焼[illegible]

道[illegible]気[illegible]千万[illegible]且民人ハ至而怨深く頑固ニして又狡

猾[illegible]大ニ方向ヲ失ひ[illegible]当然[illegible]

何[illegible]城下ニ而侍ハ[illegible]人数[illegible]

一[illegible]乱暴甚[illegible]是ハ[illegible]付返し[illegible]

安[illegible]賊徒ニ真似[illegible]又甚[illegible]

[illegible]先ツ久保氏[illegible]一同[illegible]

国立国会図書館 タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3

ガラス使用

小根山園

㊂雑説

叡封内論関軍興以来一ヶ月ノ暑四面兵ヤ云諸寇ハ馬喰町寺尾無埼嶋
矣代 丹治島 関崎 関屋 手礼 峯吟
小根山ノ関ハ三大口方 大口ヲ本郭ト云 上野 エリヲ云ヒ
分ケ 大口ヲ云
ヲ守ラシテ八月下旬ノ事ヲ一日モ八ヶ所ヲ以テ守
ヲ以テ猟銃異兵数千人ニ守ラシ
ヲ以テ八月下旬ノ事ヲ一日モ八ヶ所ヲ以テ守
其ヲ事ヲ考ヘルニ近ク往テ聞ケハ
事ヲ以テ数千人ヲ以テ守ルニ
行ノ所ヲ以テ修業ヲ積ム所ノ
ニ掌ル術ヲ以テ数ヲ以テ
テ云ヒ銀代 辛ク此ノ事ヲ計ル千見
ニ五ニトヲ以テ押ヘントスル

ニ看ヲ投ニ申ル船ヲ失ヒ次ヲ以テ二報ヲ以テ
弥近ヲ氏ヲ以テ七能ク主ニ其ノ一ヶ保氏ヲ以テ
ト以テ、事ヲ以テ力ヲ以テ
一 先使ヲ以テ数ヲ以テ私ヲ以テ
ニ以テ、事ヲ以テ
一 家ヲ軍ヲ以テ
成ヲ以テ
保氏ヲ以テ
ことヲ以テ
十月廿二日
高野左ヲ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

一 竹小弓征討の為め人数撰抜等之事

官軍を指して賊軍或は官賊と云う

一 北陸地方の官内部疑心ある様の取扱い等気遣

一 四月末より各国へ遣わされ候士官十月迄に引揚

還政令ノ新旨ニ不係旧来ノ為ニスルヤリニテ

一 官員進行ノ妻来ること可然哉之事

にて右ゆえ城い迫ると一條決定に及らんを

一 種々手ぬかり無之ニテハ事不

扱かとの

三条 後藤士 談

又 二 可泉筆記抄

北征の人数十月廿六、七日両日我後新田峯程 発八日舟津高善寺止泊宿七九日晴 原の駅川西村ろ

盛伏兵数度後方船場迫ろ祝砲を発大勝を通慶場と凱旋式戦況と長以下皆浮業

御目見以上黒羽紗 三ニテンズボン 転手袋 ほかフランネル

御目見以下ラシャフクロ 賜与 隊長副長同断事

一 同御目見之節 御意

数月之間出張尽力辛苦何ニも軍戦勝利成功之段

隊長ヘ指揮行届 副長ヘ河原尤承中談抜軍行届ニて 御意之

大勢様御不快ニ付真田志摩を以数月出張大儀

勉様御巡見和海分営の校一同御手当

一 宮本氏より延話ニ四月廿五日鉾山戦争ニ節古屋佐久衛つ

不似合ニ付松兵中尉ニ被命ニ付已之弱を

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

先鋒ニ而二番尾州ニ於而岡部長代ノ敗軍死傷多ク後ル故不進二番ニ尾州も先鋒不進故
同不進故軍監岩村精一郎ヲ以テ頻ニ激励ヲ加ヘ進ミ三番ノ御家ノ兵二手ニ分チ一手ハ
山ノ手筋所之谷を巻テ賊の横を撃一手ハ正面を進ミ岩村氏曽所ニ而一戦ニ賊敗走此節も 御
家ノ兵ニ而美名ヲ顕ス戦績ノ戦争ニハ運宜く討死もなく数度ノ戦ニ於て之多しハ
今ニ初メ二戦ニ有之と云

一 孫宣徳 賢之助 城下ノ本営ニ罷在九月十二日若松ヘ罷越 城下形勢家説ニ同故節略 於行ニ賊徒ニ
取籠其余ヲ以て甲ヲ開キ白川口之官軍ニ向ひ帰りを多く連れ来る夫婦や三味線を
弾き甚々有て饗宴ハ多ク而取り集め行く服ヲ乞ひ自身ニ而之を従へ出行する者ある
鍋釜ヲ持ち夫を携へ其ニ至るもあり後ニ続く況之其夜小荷駄方ニ而岩瀬郡四ノ城ヨ廻
ニ而其城内ニ一泊す夜ニ入テ同所ニ往復し叢棚等を載せ廻る所一泊もなし小荷
駄方ニ蘆州家集ニ相成一同外曲輪北門ヨリ入 升形ヲ経城近ク七丁程家中屋敷 立派にハ 有之

城大門を東之方 不入 此門ハ北東之門ヨリ入二丸三丸も西南之方ニ有之扉子不行 是より本丸住居 至るハカリ
玄関杯ハ尚更ハカリ書院向之様之間ニも猶く居間之わずかなる間天井ハ屋根落ちて破れ居
是ハ大銃之玉棟木を打折し故なるべし其外屋根壁等大小銃之玉疵なる蜂ノ巣ノ如く、
穴又ハ破れ有之又穴を掘り角来る事を覆ひ入之所にも有之敵退城之節打毀し埋置候を有
之石垣を抜取石尾ニ而 穴を積土を覆ひ有之肥後殿ニ而手ニ入る所にも一の者て候のこし
ニ置き様之穴ト候処預之天守ニ登る者 金井鉄之進 山崎久米 両名ニ而 八十余 三重上ニ登り而遠眼鏡
を以四方を見晴し外手代度太之近在之所兵火ニ而焼亡有之ハ
城下を初め諸村ニ戦場之地ハ衣類家財穀物等を失ひ家も多く焼亡夫役ニ駆出され偶耕作
之為入致し亦ハ跡荒されて且野菜作物等夜盗ニ遭ひ日も暮られぬ有様なり
城之東南外曲輪之門ヨリ帰る者ニ而大なる長刀を振廻て賊兵ハ交りて生捕ひ手死詰ニも
有之都合ニ而同所破れて官軍押入りしに其の守兵ハ強敵ニ而実ニ容易ならぬ由

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

賊の共粮食尽し盛降参いたし候所有之殺さ候人ハ残らず城内賊人壱千人ハ皆降

九ッ斬ニ相成候所哀悲ニ而賊人とゆるしも一ヶ所ニ差置候新砲銃ハ取上注付

〆候積りに存かりし由

一 一説白川ニ而官軍并松平ハ押ニ乱戦ニ及ひ越後ハ参謀軍監等ニ而軍法

ニ拘り相除白川ハ参謀軍監兵ハ不残相揃候所強く右之人々ハ仕方無之候

ハ官軍ニ而悉く武ヶ所新発田ハ同右官軍も致候而官軍撥兵衛等介之旨為鎮伏

一 北徳間村名主金見渕太夫つゝ吐く　仁和寺宮様御通行之節御警衛之為丹後

宮津の藩士八七人右渕太夫宅ニ休息有之候所右之者一盃七ス右藩之吐し候得共此ハ

仮名の領之内松代の領を替松代藩之説藩ニ押し候所も強勇之交共酒肴

ニ及ひ候所ニ右者共ニ御領内之者ニ中事ハ私言之不足取る候化之返ニ及候

称ニ社減之由共甲手も此経ニ事之趣先達而尾州薩長大垣其外之諸藩又ハ夫役

交代之者壱万のひ人数の英雄とて当ぬとのもの左て御下ニ任御取迫候事ニ而ハ候事ニ而も可有之

一 右同人ニ噺ニ右　宮様の御新発田の供之御老満ハ　御宿致し　十月廿五日新発田侯城新ニ御泊在り候

供向九人者共ニ申候も　御家柄故御様強勇又其領内之者松代様と申ても夫

役の官共進んて致スとの事

一 右同人噺ニ十月二日庄内様　柏原の宮之　御通行の先觸の文言　之ハ可給何人庄内ハ

有之人足ハ私共ニ而七人之内手人七拾五人御道具の御籠馬の挟箱の長柄傘等

為酒并松塗抄棒先ニ御馬乗替之人之手人程ニ後触ニ一挺之

夫役之々兼服之至内ニ化之服等ニ而ハ通行相成候ニ而ハ迷弥様之由

け々由

一 虎之御門内比丘尼屋敷御拝領　永田馬場町の御屋敷上り

一 十月廿三日宇和島老侯　議定 外国知事　権大納言へ御昇進

己巳十月廿六日示

紀事

一 東京 御着輦ノ後市中一行ヲ賜其數十八万樽ト云右酒樽ヲ車
載して歸れる衣裝美をつくし婦女ホ髪を裁り男裝して山王氷川ノ祭の
行裝の如し但唯一日ニ止れり
一 徳川家ニ而九ヶ門番を免ぜられ由緒書ヲ差出ス
を免し戦和を祝ス時兵隊一ノ列着三十六万人ト号ス其外ノ無員
当三十万人あり七十万ニ二人ニ石ヲ給ス公役ノ為ニ
故ニ諸大名ヲ給ス公役ノ為ニ駿州千七百石ヲ給ふるなり
一 徳川新君及家将軍一同東京ニ移ル
一 御別ニ而ハ遠ク而ハ駿ニ而ハ移封ノ命アリ
一 駿府ハ徳大多在、移ラスノ称号ヲ林昌之助 本領安住ホ服ヲ北条ト口実ト云

十月二ヶ

一 三村生 鎌大郎 五番隊 語津川ヲ渡道ニ難路ヲ経テ少秋山ニ至ル
北陸官軍洋川口ヲ進ハ行ヲ追ヒ越ス 新発ノ賊ヲ討ヲ先軍ハ高井
継名ヲ追ヒ右軍ハ水巻ニ進ム 柿洋ノ賊ヲ討シ其別隊ハ少秋山ヲ追撃
日ノ原ノ賊ヲ討シ又一部ハ高ヲ
防辺等ヲ北ス 軍敗走ヲ追撃ス 夜後傳ヒ
夜後傳ヒ作ラヤヲ経テ 戦士ヲ
さうう 苦めりと云ヒ 事ヲ
奇兵ヲ以テ 報ヲ
一 三生又云ふ 九月十八日
勿めり川ヲ陽子城ト 北谷中後ヲ銃発飛来ル者ナ
ヲ報ヲ時方ヲ合発ヲ報ヲ不合ニテ
り知ニ教ヲ 後四時許ニスルニト云
城川保之云ふ 西申行ニ
引連来ん 又ならず報ニテ今放リ右ノ方
城川保之云ふ 事終ヲ止城リ来ル
報ヲ之向ヒ行ヲ来ル何ニ行ん
不知 備此勢至ニ城ニ敗ニ走ん故

此条西日記可候見

一 東京 御着輦ノ後市中一行ニ酒ヲ賜其數十八万樽ト云右酒樽ヲ車
載シテ歸レル衣裝美ヲ盡シ歸女ホ髪ヲ剪リ男裝シテ山王氷川ノ祭ノ
行裝ノ如シ但唯一日ニテ止ミヌト云

一 徳川家ニ而九ヶ門番ヲ命ゼラレ由緒ヲ辞シテ免ゼラレ由今茅町ノ無員
ヲ命シ戦和ヲ改ムル時兵隊ニ列着ニ十六万人ト号シテ其内服ヲ正ス万人ト
号シテ七十万ニ二人ヨセ今駿州千七百石ヲ賜ルト云

十月二日

此条両日記可候見

一枚ヲ取ル

一 三年又云フ両ヲ攻ム 九月十八日
勅使ノ帰ラントスル前方ニ於テ不合ニテ
ノ新ノ時方ニ合戦ヲ始メ後ノ防ニスル人ヲ
ノ如ク数ヘ後四ヶ所ニテスルニト云
後ニテ五七人ヲ一数ヲ止メテ後ヲ防ニスル人ヲ
城川保之云フ之ヲ止城川ヲ事終ヲ止メテ後ヲ防ニスル人ヲ
取ヲ之ヲ向ヲ引連来ン 西軍行ニ又ヲ引連来ン
一 三年又云フ両ヲ攻ム 九月十八日 勅使ノ帰ラントスル前方ニ於テ不合ニテ
ノ新ノ時方ニ合戦ヲ始メ後ノ防ニスル人ヲ
ノ如ク数ヘ後四ヶ所ニテスルニト云
後ニテ五七人ヲ一数ヲ止メテ後ヲ防ニスル人ヲ
城川保之云フ之ヲ止城川ヲ事終ヲ止メテ後ヲ防ニスル人ヲ
取ヲ之ヲ向ヲ引連来ン 西軍行ニ又ヲ引連来ン

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用　挟み込み物

雷未四ツ又ト云ニ一番ニ吉田押入ルニ二十人計ノ敵来ル故也及合戦諸隊ヲ待モ在ニ
吉田ニカヽリ此時雷神隊人数好ム吉田ニ於テ戦テ居ニ付依後来ノ社ノ数隊ハ行テ鉄
砲ニ組ノ札ヲ渡テ又吉田ニ向ル道ニ後ヘ君ヲ隠ス逃ル賊ト待時之行違タルトモ
見ニ小男ヲ見ルヤ不皆鷹巣千連発ノ銃声ニ於テ其跡ヘ石ヲ以テ集中ト草木ノ積ヘ
入ル隠レ身ヲ隠スヨリ之　佐又吉田村中ニ町二筋アリ其末斜ニ田リヲ横道ニ出テ口
作依之行違テ右全舎ハ此口ノ軍監ニ説テ先之右ノ小路ヲ進ヘ田リ
先ニ敵千五六二十人計在リ何レノ所ノ陣ト問故合言ヲ所ハシテト答ニ彼ハ合言ヲ
ト聞ルヤ又言故合言ヲ所出席ト云ヤ否ヤ打ト云合ト共ニ連発セリ　西中ニ去テ其時
ニ在ル石垣トカニサレ身ヲ隠ス　依テ敵ニ計リ故逃ル際ハ
卒ニ一丸小過テ後ヲ従タル僕全流印ガ編笠ノ端ヲカスリテ
去ル追ニ二人トモ故十銃声ヲ聆テ

亦未蛭川ノ茸狩ト
陣中流言通話ス
リタルヨシ

急ニ走追タル賊ハ已ニ道ヲ去リ未タ小川ヲ渉リ来テ一村落ノ賊ヲ打捨ルニ
田ニ於テ一同引上全舎ハ休息中其ノ兵隊ハ皆掻リ柱ニ軍監ハ
之程ヲ待テ居リ先ニ所ハ川来リ此一時計ハ雨ノ近到ノ人ハ
ト申候ヘアシクテ待来テ追テ近リ来リト云テ田ニ不同ノ敵直ニ別所ヘ来
ル故且是迄之作候テモ又後レテ引揚ケ所来リ又後ニ二千五
二千人斗ニ於テ不中ハ不申者ト待テト云　此後数ヘ少ク所ニ申

一　右休息後是街道ニ大作候スベキ舎ヲ故全隊ノ休息セル下陣ヲ一同後タルテ
未後故サレ待合スル内橋本ハ垣達橋ニ隠レタリ其内後ニ大殺ヲ抱ク者
在リ前ノ戦ト思ヘ抜ク視レハ一賊左手ニ抱テ右手ニ首ヲ落トトスル之
組合後ニ横倒シ見タル人ニ斬合テ後ニ十ブリ殺タル内柳此賊ハ豆家ニ残
全隊ニ生捕タル水戸浪士ニ田中ト其ニ引来タル時中風ト如ク来

祈スル故全ク組ミ無様テサモ纏ヲ縫メ袋ヲ置タルニ潜ニ纏ヲ脱ケサセ家ハ鉄
淡ニテ打却ノ薬刀ノ有タルヲ以テサ挙ニ及タルモ然トモ未タ不研刀故ニ二三テルモ
襟ニテ切レタル耳ニテ身ヲ衣ニ鉄刀ヲモ若刺ハ必創ツクキシ賊モ不得ニテ橋本
の年ヲ〃トニ云々 [illegible]ニ遭ヘ一[illegible]ハ年ヲ〃トノ待之トソ

此条ハ富田日記可併看

一 白川[illegible]士斎[illegible]九月十四日戦ノ時士斎鉄士杉種[illegible]小笠原[illegible]ニ至テ牧野
[illegible]待備テ不残[illegible]トノ[illegible]
其日戦[illegible]遠ニ砲声聞[illegible]到[illegible]近ク[illegible]不
利ニテ引退[illegible]ト思ル後ニ[illegible]遣[illegible]賊近ヘ来ル
[illegible]思ハルレ[illegible]未タ一[illegible]張[illegible]
ノ故急[illegible]草鞋ヲ待ヲ待[illegible]其日[illegible]故直[illegible]張[illegible]
始メ牧野先鋒ニテ其近ニ勝利[illegible]進ニ敵ハ[illegible]弱[illegible]トキ[illegible]ツテ

引故為ニ進ヘ敵ハ十[illegible]引[illegible]テ右ノ方 我先 叢林中ヨリ俄然ニ[illegible]
テ我後軍ハ未續[illegible]人有[illegible]月形ニ[illegible]テ我ヲ包ニ[illegible]故[illegible]
[illegible]ニ[illegible]ヲ[illegible]引[illegible]敵ハ勝ニ[illegible]
ル[illegible]
田ニ[illegible]藤井[illegible]ニ進ムニ敵二人[illegible]進来[illegible]
[illegible]敵ハ二賊近ク
[illegible]ヲ執リ[illegible]銃[illegible]我ノ銃声ニ
[illegible]此銃声不知ル直ニ[illegible]従ル[illegible]薬[illegible]藤
井ハ倒レタル故所[illegible]二賊ハ直ニ[illegible]
バ[illegible]賊ハ[illegible]白川[illegible]故
[illegible]銃ヲ倒[illegible]一人ハ倒[illegible]銃口[illegible]賊ハ[illegible]

藤井ノ敵ハ近[illegible]二賊ハ別人ナリト云

此條は富記
の脱看

一 田中力馬八十翼銭ノ名跡ノ望アル人金八百一従九百 八十両ヲ献納シ其後隅ノ照準ニテ

一 金忠氏話ニ曰ク城内天守ヲ望ム初一条ニ中ヲ甲冑タレニテ甲冑ヲ着シ数十条ノ丈夫ニテ少シ二可有等ヲ取ろうし、後城内ノ入り視ル処ニ中ニ手負ニテ死ス者ト組連ネテ引ニ二三ノ九ノ櫓ノ表ニ石垣ノ高キ処ヲ登ル処ヲ見ル二ノ手後カラ引ニ

先シ之ヲ以テ説ケリ 此稲ノ東ニ 銃ノ陣ヲ城ノ

東ニ在リ 二三ノ九ノ東ニ 井呉レヨリノ 敵ノ 近距離故城ヲ打 敵ノ弾東面ノ陣ニ

ヲ 在リ 西五ノ多ノ 此ノ弾ハ不見ヨレ又二三ノ九ノ櫓ノ表ハ

ヲ 御クラル 且ツテハ 敵手北西ノ方ニ 南ノ 多ク有リ 此ヲ

後ノ 瀬ニ大門ノ在ニ人出ル角ヨリ一弾ニ八九ノ 辞破ニテ 弾ハ柱中ニ 多有テ 是ヲ

城石限リ 我大砲ノ効 残リリト云ノ話ノ 砲ヲ 打敵ノ 弾ヲ

効サレ 仰ヲ 聊発スレニテ 打ヲ 弾ハ

一 金津城中諸ノ 箇所二十八ヶ所ノ城ノ如シ

一 金弥氏話ノ城ハ本丸ニ 条ヲ東ノ郭ノ二ノ九ニ有テ四方ノ壁ハ白漆天井ニモ大砲弾ノ打抜

ル穴数ヲ有ヲ実ニ可驚ハ恩ル故ニ其ヲ一方ニ有ル石九石垣有テ 此ノ 多後堅固ニ

芝土居ノ築ヲ女内ニ実将ハ死ヲ致サレリ 此二ノ九ト本丸ノ 間ニ大ナル 堀ヲ即武

器ヲ入有ヲ其南ハ天守ノ 本丸南東間ニ 方ニ四間ハ 高ヲ十数間ノ 城ニ十六

間方 五重ノ第一 上層三間方ノ 或十六畳ト云 四重迄火縄銃ヲ正ニ 壁ニ 畳敷並有ヲ 壁ハ弾丸ノ 破

レ如此ニ日ニ二三本折ケル 打サレニ可 前後ハ サヲ不見ヲ

一 金弥氏ヲ 差松城下ヲ九月九日ニ二度目ニ行 親タル時ハ例ノ官軍ヲ 堂物並ニ大ニ

引上ケリ 初ハ 居ノ 高ヲ 移後ハ 蔵ガ 取出ヲ 新物故ヲ 大掃除ト云 然ハ 敵後ヲ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

ニ後モ此ノ不法ノ事ハ尚不禁ナルト見ヘタリ
一 会忠詰雷振砲ヲ津川ヘ持行時諏訪峠始取路陣論ニテ砲台ハ高ク 西二丁程ノ間ニ
鉄夫二十人ニテ野ヲ踏漬スカ如シテ十六里ヲ二日半ニテ漸運セリ 柳新田之上ニ
多ク謀リテト陣所ヲ据ヘ砲台ヲ築ケリ我々ニ敵ニ築ケル処此方一里関ヘ山ヲ
切ニチケ所ヲ諏訪殿ヘスル故リ其後サシ下リテ小屋陣トセリ是八月大晦夕ナリ
之築造未成ノ処砲ニテ先撃始タリ津川ノ賊近ニテ町ノ目量之我ライフル
ニテ説諭ノ砲ハ彼ニ不到彼ノ砲三門我砲台近傍或路上ヲ越十間許ノ外ヘ
落ツル処一割六行砲ナリシト云トモ右ニ当大十九四斤弾之ニ二砲ハ矢弾ナリ 備二十
正ロタセツ時頃近打タルモ彼ノ ノ堡塔ハ焔一條立タリ賊火ヲ放テ退クナ
ランナト云ルヽハアルヘカラスト云処遠鏡ヲ以テ視レハ津川ノ町ヲ家残ニモ成リテ
近来ノ於是其方ヽ照準シテ発放スルニ人家ノ壁ヲ家章ニモ打穿チ

陣営ニ遠ク守タリ敵ハ益急ニ営退去セシト見ヘタリ其方ノ山ヨリ蜷川備居ルハ早ク津川
ヘ打入レカシト思ヘド不意ニ敵砲隊之士卒 久保村要人 三寸木 徒ヲ合セ十三人皆不鋭ヲ揃カヘ
早ク一番乗ヲ二ノ丸ニ若当砲ヲ用ヒハ夫等ホドモ有テシテ一ノ新ト云タレハ昭児
テ先行タルモ後口テ多ク保出セテホツ早ク小松口ノ勝ヲ一ノ待ト言一人モ後ヲ不行
ノ雁行ク誤待スレモ不在其内隊営氷ヘ追テテ砲銃乱発スルヲ影ヒ一賊ノ名発モ
発セ遠ク砲台ニ登セサテ一発二両ノナホシオニヲアノ如ク打ヲ一倍代ニ出テ当テ
ヲ指ハ好ムンハ将待セヨトモ人例ナリ甘ミモンスカ不ミシ後ヲ見レハ越前藩一番ニ
札ヘ不乱ヲ敵陣ヘ建置ヲ補モ有ヘ同ナ砲隊ハ出所ヘテラズ蜷川ノ銃隊早ク来
入ハ在所ハモ補ル二番ニ列セル様松代等ノ砲隊ニテ津川ヘ着ヲタルト云ヿ其他
ニテ当藩本営ハ多ク保業ニ近シ其早近道行ニテ行レタル故遠近ハ守ヘ
我河隊長本陣ヘ来ル廿夜五ツ頃ニハ入リタル由 雷振砲一門ニテ津川ヲ破タルハ誣言

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

（なをし此度也征中第一ノ功ト云ヘシ）大砲

一初ライフル砲ヲ多数ニ送ラレ原村ト砲臺ヲ築ル時敵ノ本営ハ馬越村ニ在リ其正面ニ砲臺ヲ築キ三門ヲ備ヘ其左右及南北數ヶ所ノ壘ヲ築テ敵ヲ禦ギ又馬ヲ村ノ山ノ麓ヲ繞リ松杉ノ森ヲ下リ　寺ノ大門ヨリ寺ハ其柱中ヲ穿チ先ヲ防テ東北ヲ支ル処ヲ（新令取所ナシ）以テ大砲ヲ（ホハ令撤ノ字ニ似タリ）碍ラレテ弥不可通ト云ヲ角度（三門ノ砲臺ヨリ十二丁半夫ヨリ山ノ麓ヲ繞ル故十四丁ヲ云ン故ニ角度ニ）尽ク彼ノ一発ヲ恐怖ノ余リ其後敵ハ令後所々ヲ修移ル尤前ニ旁ヘヲ寺堂ノ屋ヲ中ヲ穿ツ事ヲ思ヒ付ル事ヲ其寺ニ行教ヲ大弾至ヲ由ヲ以テ大廻ノ大廻ノ吐哉士等（金石ハ紀ル事ヲ（ヲ）故不見）

右様キ令後席ノ中央ヘ落尚痛ヲ打ヲ事ヲ為ヲ（特ニ）ヲ彼ヲ士ヲ（ヲ）ヲ

是一弾数ノ本営ヲ破ル賊勝ヲ為サレメタルナリ

一右賊ニ対シ砲臺ヲ打ニ一発ニ三十二俵ヲ込メ五挺ノ弾薬甚張ク其後ノ土堤ヲ

一条ハ十二斤砲ノ為ニ胴中ヲ打折ラレ即死ナリト云、夜中ニ居ル近ノ者ニ然シ
ニ依テ二門ヲ挽来リ井ヲ又手砲ヲ以テ敵ヲ打砲ヲ放シニ又様来リテ井
キリ打近撃ノ時戦士ニ其二門ヲ捕ヘ又五月ヨリ長州ニ有シ者十ホンカヒ
砲ヲ毫モ撃ズシテ種々繕モ有リ然ハ一門ノライフル砲ヲ敵ノ三砲皆破
リシニ此砲ハ長州人ノ世話トナリ故云々タルナリ

一 唐井ノ負傷ハ五月以降得意ノ戦ニテ大ニ喉ヲ打ラレ近郷ヲ追行シ候
ニ敵師ノ策ヲ以テ諸塁ニ並ハ火ヲ発セシニ一番土堤ヨリ進ノ方ニ至リ右ハ何レ川
左ハ深田ニ而近ク進ミ難シ、近辺大ニ危キ所也故ニ諸隊交代シ数日ニテ従
ニテ右ノ左右水防塁ヲ築キ塁ヲ堅ニ守ル…ニ三人ハ帰
ニ依テ又ライフル砲ヲ以テ東北ニ向ヒ敵塁ヲ打故ニ敵モ之ニ…
テ兵ヲ出シ長州ノ負傷ヲ見ハ穏ニ戦…ヲ来リ…傷ハ頭
ナルヘシト云々
右…丸子…謹

十二月三日

藤井ヲ打タル敵ハ桜谷藤吉ト云者ニテ前ヲ不備ニ…シタル二人ノ敵ヲ討留タル後別ルヽヨリ…出タルナリ

一 藤浅子話熊本黒子早稲植銃撃ニ所聴説云小笠原井ヲ体ニ先中左軍牧野孫ホニ銃声
ニ次第ニ近ツキ味方不利ヲ思ヒテ敵ノ陣所ヘ談判ニ来テ人数ヲ率テ十七騎ハ其前
僅十二三町ノ先ニ至ル戦ニ頻ニ苦戦ト見ヘテ田是田也、稲ヲ刈テ畑ニ中ヲ真直ニ進ミ敵ノ 笠水
左手先ニ合タリ此時藤井ト共並ニ進タルニケットヲ着タル一人アリ敵ノ味方ハ…右
害ヲ致シ右ヲ取ニ…ク藤井例ノ実リ詞ヲ…名ヲケットノ下ヨリ銃ヲ出シテ発ス藤井
ハ倒レ孫某持ハ悟リ…廻ル故直ニ様…実…テ村屋ノ方ヘ逃ケ追

近キ寄リ別レ敵二人跡ヲ…一人実ハ…トス

テ見…ニテ…田長…従…所…リ白川ノ銃撃シテ…果ノ…ヲ
発…セト云 按ニ柘白二氏…傷…ニテ従ニ異ナ此若柘植…二二不倒白川ノ方ヘ走リ
来タルヲ銃撃センカ倒レ又敵ヲ銃撃スル時ハ右ヘ…レ残一賊モ柘植ノ様ハ不
殺二三刀ヲ打テ…一ノ知 又此子モ傷ヲ負ヒ…サレ倒レテ進ミ兼故ニ筝部
当ハ不…トモ陣中ニ所聞ハ白川ノ説ニ由ル…倒レタル賊ヲ…ヲ追撃トゾ

戸殿ハ見テ取リケツトヲ着タルトハ不思ト云タリ

一 桜井氏話 北越戦ノ初メ津川口ヨリ進ム先ヘ分レ北越會津塩川ノ敵ヲ破リ若松城下ヘ一ノ手入トノ軍令ニテ九月九日ニ其所ニ進ミ十日ニ若松一ニ到リ桜井ヲ出タル処塩川ニ敵一人モ無ク皆越後ヘ往ル處ヘ進ムノ由是ニ依テ皆越後ニテ二ノ攻撃ヲ決シ備ニ手ニ分レ左右各出張ス右隊ハ長州干城隊ヨリ銃兵八二小隊我松井隊大ニ戦士等先ニ左ノ方ニ到リ越後川ニテ一ト先ハ一ノ直ニ発撃左隊ハ直ニ越後ニ戦ノ策ヲ一ノ衝ニ其内又分配シテ牧野一隊岩国一隊ハ本道ヲ進ミ其右吉村一小隊又其右五番七番戦士増兵トナリテ進ミ殺ノ側面ヲ一ノ発撃此三手ハ兵持合ニテ一ノ進撃我一小隊ハ又二ノ手右ヲ大廻リニ殺ノ側後ヘ七テ不意ヲ一ノ撃トシテ部已ニ定リ本道ノ牧野岩国隊ハ駈足進ト云合セ左ニ撃鼓シテ進ミタリ松井ハ戦士隊ノ後ニ廻リテ進ミ入ルニ元道モ左ニ田畝ヲ越後ノ日細ニ進ムナルニ不備作ニテ深田アリ其畦ヲ徐些田折シテ進ミ到リ九ツ人二三ノ川ニ落アリ浅処ヲ求メ摺渉リ渡リ進ム内本道ノ二隊ハ坦路ヲ急歩シテ近ク一村ノ前ニ二三条（小更住ケトカラス）発銃セルトミヘシ殺気トミニ忽チ走退キテ次ノ村落モ退ミノ後散タリ不見此地形東ニ緩キ連山アリ其裾ニ越後川ヨリ数十ノ村落アリ川中島ノ空寺迄ヲ見ル如シ此時作但一人ノ遠リテ牧野ノ清息ヲ探シナカラ進ム内越後ヲ見ニ此方ニ本道ハ村ノ尤ハハシ二ヲ通シ其ハ墓原アリ古社茂林ホトモ有テ墓原ニ殺数多在シ見ルニ内牧野隊走付撃合ナリ見ル内ニ殺数ヲ列ツテ打セセリ本道ニ戦始ムリ此方モ打テ見ヨト云テ一発打ヤ否ヤ思ヒ不寄直向ヨリ敵数ヲ列ツテ打セリ時始ル傍之ニ走入ルノ僕四五発ノ時弾薬不足一ノ道人ヲ以テ故桜井弾薬ノ迎ヘ行ケト駈セシ僕数十歩ニテ銃卒三人逃来リ自分ハ弾薬ヲ取リ行クト云テ来リ逃テハ不宜ト云ハ本道ノ方已ニ敗走ス故ニ走ルト云故ニ其方ヲ見遣レハ牧野隊已ニ敗走シ取リ其上ハ仕方ナシ一子ニ逃ケヨト云ニテ内ニ村ノ走ルハ前ノ方ノ弾薬ノ大笑ヘ

行シトシタル所ヲ路ヨリ敵追テ引揚ヒしト下知セリ丈介答白兄ニ代テ去ル処敵
ハ頻ニ追ヒ掛ケ来リ早南近口ノ隊ハ堪ヘカネ逃テ来リ隊ノ跡ヘ廻リシ
ニ隊モ又此兵共ヲ引率シテ卯ノ浅瀬ヲ求タル二本ノ川ナル深瀬ヲ不
憚衆ケラル水草ヲ越ヘ又剣ヘ掛テ居ル系様ニ上リテ倒レ濡レ
ナカラ火ヲ深田ハ畔ヲ廻リ上ル上ク顕ニ知ラシテ泥ニ塗レテ小溝ノ岸ヲ
草ヲ取テ藤ニ隠レ水ヲ呑ニ息ヲ次キ右ノ方ヘ斜ニ本道ヘ志シテ走ル了二千余
丁ナラニト思ク漸ク本道ニ兵ト一ツニナリテ備本道ニ方ハ隊ヲ敵ヲ侮リ疲ヲ不
待一息ニ进メ先付倒西ヲ不意ヲ打撃ク息ヲ休メ多ク去ラネヘカルシ岩上陰ニ
走テ牧野隊モ引揚ル敵将白旗ヲ以テ指揮シ頻ニ追フ又指揮ヲ取リヘカ先ナリ接戦ヲ
苦ミテ隊引退ニテ中ノ中村（少年介）外ニ四人刀ヲ抜テ踏留ル故ニ不進引揚ル又追
（此戦死ス年二三歳）
以テ高田中村戦死シ弟ノ二村前ヲ追ク本道ニ逃ル斜ニ曲リテ

敵方ニ土塔アル処アリ此ヲ至ル佐久間甚大夫
光返延来ル（此人ト原田ヱメタカ両人多勢ヲ所介此隊ニ附ラ牧野下田 宮近延ニ共ニ出テ多勢ヲ保チ但返ス勢所ヘ）刀ヲ抜キ舞シ此ヲ止レト呼ヒ敗兵ヲ集メ大敵ニ戦士若干隊モ皆此ニ来ル
戦ヲ為ス敵ハ林ヲ楯ニシテ撃ツ会且左翼ハ稲荷ニシテ我右側面ヨリ射撃トナス之ニ由テ本道ハ
接戦ノ場所ヲ以テ各接戦士ト若干隊右隣キ牧野隊ハ右側面ヲ防ク其内敵兵
隊何方ヨリ攻来リ三ノ吉井隊ノ左翼ヲ取ケ戦死士七名戦士平城隊ヲ接来テ敵
ノ左翼ヲ攻撃テ六毛兎撃ヲ以テ後ニ敵ヲ追却ケ東ニ向テ斉射セル牧野
隊吉村ホ右隊ノ右ヘ斜ク東ニ向テ斉殺スル程ニ敵ヲ撃破ス此時已ニ夕景ニ
及ニ敵ハ小荒井辺ナル村落ヲ接戦セル村ノ雪亭隅ヲ本道ノ左後ノ村ホニ火起リ
後ヲ包ニ有ケリ先ル據ニ思ヒ兵兵相謀ル弾薬尽タル故ニテ夜引揚ト皆去ル
（白川）此時ノ牧野ノ戦ト始マル而近追却ノ名アリトモ云ハ却ニ戦ヲ不去後ハ踏止マル処ヲ
ニ戦ノ地ハ思ヘルアリ此戦也意牧野ホ敵ヲ侮リ右翼ノ奇兵越家ノ廻シ撃

の令孫も子孫一已ニ功を貪り進ム故ニ右軍ノ救援我軍勢ヒ甲十ノ八北刈一路歩ム

コモ従ふえしト云へる

一

幸近ヒ迷来夫ニ一首ノ歌ヒ作ル来ヒ云ふ事ヒ

若松城ニ籠ル官ヒ土佐ノ我ノ如キ者村松勇ノ官ヒ敗走ノ後ノ

ヒ直ニ従ふ官ヒ云ふ事ヒ聞ク又土官松ノ夫人恨ヒ下ヒ称ス倒ルヽ者ヒ云ふ事ヒ聞ク我ノ如キ者ヒ直ニ死ヒ又名ノ高キ話ニ名ノ

故ニ此歌ヒ詠ジ来ヒ引キ抜ク事ヒ遠ク辺ニ出ル又二九ヽ

中リ弥退キ得ザル官ヒ指シトスルニ新撰ノ諸軍ヒ云ふ事ヒ

又若松ノ村松ノ如キ者ヒ許ス筈ノ事ヒ行ヒ不ル

仍テ老人故ニ石得ザレ共ヒ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 終に君公薨去の討死も数人其翌云迄ニテ撃留られず得恥辱小額の村芝居
八蛾ノ今宮にて又吟又別ニ二蛾土堤落語ものもくちゃんや数人ニテ数手ものもの
云ふ名題甲長柄棒振乱自宅ニ来る白昼ニ不一ニ
ふり動り不覚十ルベシ又世話夫婦ノ噂ニ
メカリシハ数ノ客中村ノ助ノ夫ニ切ニ
ける夫ニテ早く引ケ花の移り行ニ
陣取もうんぬ又ニ時くらいの空ニ
主ニタリ云ふ者ニテ跡ニ追行キニ
ト云ふ一の意ニ有ニ

一 長岡両度ニ成ル幼延行ノ一時
ニ

一 追録此数僕九ノ全ク云高田銭ノ時仲佐後即社大ニ森ノ
道ニ其中央ニ大鳥居ニ又坂ノ西ヨリ入ル道ニ
りニ高田ノ往ノ道ニ其ニ諸ニ人家ニテ街ノ
あニ女町ノ北ニ神ニ定ニ其日立寄数ニ八
李社ニ往ニ帝ニ又神ニ宅ニ干入ニ戦ニ捜サレ
僕八旦那武蔵ニ従ニ町ニ南ニ往ニ南ノ大道ニ出ル
ニテ数ニ人仲ニ逢ニ新ニ仲ノ口落
旦那金右衛門ニ笑ニ為成ニ言ニ
移ニ元ニ直ニ条院ニ僕ニ直ニ右ニノ人家ノ並
ニ越ケ岸ニ中役ノ所ニ旦那ニ北ノ寺ニ二ノ宮落
ニ越ケ役直ニ行日暮ニ人ニ中ニ辛ニ新ニ出ル

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [

一藤井氏話柏元去執筋信ノ説、一日立後ち我妙ろタルヨ話兵粮強奪ノ事を助言ス故手ノ舶乱不調ナルパロニを概運ス所曇ラ三ス四ろ宮遠ろろめろ戦後ろタり所曇ろ手ノ乃ホ化ろ自己ノ好ろれ面ニ子奇ナ心我体テハ脚秀ニテ仰倚ノ時ノ事ホ当倚家ノ好我ナルカ

一十二月十日深夜ニ好ろ主ノ宮村田ニ往ろ

一今十四日北我が北田宮矢野名頭孫村谷ろん多ノ宮旋シタト子旋流ハ後ノ執灯奇矢後ハ宮ろ弘ろ徒田法務ろまろ子仍実ハ都野ニテ不得運ノ子

一多野之出泉ノ小荷物方ニ居テ俄ニ好宮ナ家ノ一名ルテ夜奥ヲ調延ス

計方ニ取ニろん子ろ給ニ高ろろえろ

北征雑話 附近頃新説

一金孫氏話長岡当事ノ始ハ大小荷物方建ノ後報安ノ品ろ宮ハ皆ノ神ろ人殊ニ彦ハ宮あルヲ当ろ宮ハ皆ノ神ろ人殊ニ彦ハ宮あルヲ当ろ

近傍ハ当ルトもろろ世報後ろろ八千ろ銭ロホもろろ宮衛之洋川ハ後ヲ頭行ヲ皆飲福ヲ濁ろ後ろ洋少ヲ野ろ報家ヲふ徒ろ芋報物ヲ実

辛ニ遠ろめ後ニろヲ今ろろ之倫女詰変ろ化条新奇面ろ後ハ宮ろ

土泉ろ一ノ待ろトろ土泉ろヲ忘ニ後全ろ事ヲ当ろ

後ノヲろろ我兵隊行過宮ろ叶ヲ注稀後ろ

一藤波氏話 十月 日北我府ろ多ろル宮郷ニ布ろ 此人宇和島ろ四像数ハ後人ろ三月ヨリ四ノ倚人ろ報兵ト云ル今ヲ四ろや

話致後奇新宮ヲ置ルハ不可無ト云議論有ヲ杉峰長岡ホ日延ヲ来ろヲ所不定或ハ三像

一可然ト云説ヲ有ヲ云 三条ハ村上領之 高崎領モ移近ろ 倫小知谷始一所ニ戎兵ヲ以置ヲ地ニ治民ろ

一箇処薩長人ト加州高田藩士ト機密ヲ申談、紛ヲ為ト云論起リ各所ニ是非トモ
松代藩士ヲ一ノ居ヘ云テ不折合依之京師ニテ処分待為高広氏也張ニ保足ニ[illegible]
兆田之[illegible]井老ニハ右ノ説故ニ矢野氏ヲ長岡ニ徳田治部右 寺沢大之 [illegible]五泉ニ
矢沢兄弟竹花兵馬[illegible]未解者数人[illegible]ト云 [illegible]未解ニハ岩条金
弥氏ノ説故ナラン歟 将ニ[illegible]宮部ニ[illegible]立[illegible]
作リトシテ[illegible]人ノ[illegible]出ト云ヘテ[illegible]トカ云

一 宮部ニ[illegible]人ト云シ汉テ[illegible]不[illegible]故[illegible]之[illegible]
[illegible]出スルコ[illegible]唯一事[illegible] 此一事何事ヤ 宮軍
[illegible]八[illegible]本営 大小荷物[illegible]其内[illegible]器械弾薬ナト[illegible]
[illegible]之[illegible]故[illegible]ナリシ也[illegible]皆[illegible]
故弾薬[illegible]其[illegible]補ヲ買入ニ為テ[illegible]

俗[illegible]弾薬[illegible]何千発[illegible]不備[illegible]
従[illegible]一先宮[illegible]
[illegible]弾薬[illegible] 買入セリ此ホ物皆[illegible]
[illegible]其[illegible]
夕[illegible]質債多く一道[illegible]何[illegible]
実[illegible]長[illegible]ト[illegible]

一 河原隊長小千谷ニ[illegible]後千[illegible]故ハ陣羽織ノ軍装ヲ不設諸[illegible]
[illegible]有ハ不[illegible]唯[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 [illegible]観[illegible]観[illegible]

所有て又相逢ふ迄先東觀ふ止　還幸ふ供奉ふ諸
ホト　ロ供奉ふ如ク　ロ後供ふ各自ロ
ロ供奉ふ　ロ供ふ

一　右ふ通被仰付ふ上ハ後先ふ各相心ふ事ふ有ふ
ロ草一氏ト供ふ者村田ヘ行ふ又ハ各ふ如ふ

一　宮内ふ役人ハ宮先ふ示ふ通ふ
ロ　ふ事ふ如ふ

一　ふ事ふ者ふ建設ふ後備ふ
近事行ふ第一等人ふ

此說實ふ說言ふ　自ふ第一等ふ
一　錦子一旅純士一隊ふ後ふ北征ふ無
一　後陣ふ合ふ事多數ふ
勤ふ士ふ筆記ふ
ふ祝ふ酒ふ
故ふ出陣ふ
一　我各隊別ふ各所ふ
今後待ふ
一　北征軍中評ふ
陣ふ長髮ふ

一　相以帝ふ郎ふ

ノ儘ニ而ハ又水害等ニ因リ又ハ
多住候自然ト住民ノ困窮ニ至ル之ニ
トハ云ヘ共ニ而ハ十万ノ俸ヲ領シ未タ
一東京近傍諸藩殘兵潜伏物ニ而ハ
スルヲ以テ人ヲ解ク多シ
ヲ表飾セレハ云々ヲ
一今春松本ヨリ浪士一行東西ニ
ル事ヲ遁レントシテ
一加賀縣ヨリ侍ヲ以テ松本林
多津住父子ヲ
ヲ以テ

一十一月十一日小幡行テ歸者ノ所
事ヲ之新旨ヲ
其後ノ風說ハ少
一十七日村松侯
来タル四又十
一雲州侯小幡
一今年騒乱ヲ
調錬ノ為
徒業ヲ
りと云
一術ヲ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

仲矣十七日第一氏岩村田ノ解ヒ云飛脚ヲ以テ此事件ヲ何ロ又聞此事件ヲ聞ク者ト假リテ私恕ヲ報ス三ノ不知事ノ付此ヲ悉皇宮ヲ希ヒ諸ノ名ヲ書ス侍ヲ到ラ事モ〻ト云事ヲ作ラ不ル得

一小諸ノ刑法官ノ三人ヲ以テ岩村田ノ名ヲ書ス君侯ヲ撃ントス

牧野八郎　安人
高橋郁毋　主業鉅人

外ニ大田垣蓮月尼在東京ノ中山仲　近ヒ人ヲ以テ此ヲ聞ク

一説此件ヲ岩村田ノ富豪　今津ノ四郎ヲ誘ヒ之ヲ由レト云

一城ヲ追本藩ヲ侍ラ辺事ヲ謀ラントス仍テ彼ノ騎傷ヲ返ラントス

一松平信之ヲ為ノ主致秀ヲ為ノ尾大ニ直ヲ侍従ニ仍テ五名ヲ賜ヒ家祚ヲ永ラ

一記ス事西牧野八郎老ヒ高塚（タカツカ）ヲ輩ハ之ヲ此二人文学有人大田垣ヲ明人ヲ以テ老ノ岩村田ノ名ヲ書ス又文事有ヲ以テ少話ラク人ヲ

ヒ云又君侯ハ立ヲ中ラ之ヲ思ラ少ヤ旦ハ作ヒ事ヲ

侍ラ礒当初ヲ彰ラ実ヲ

一東京新聞ニ幸橋門四郡山伊東亀毋三郎ヲ民政市政会計三局ヲ域ヲ

一盗賊ヲ捕吟味ノ時ヲ云テ銘事ハ此ヲ

通ヲ云ヒ聚ヲ和通ト答ヲ以テ直ニ字ヲ

ルヲ以テ人ヲ此ヲ又ヲ望ヲ事ヲ泉生ヲ

一多ヲ侍ニ吟味ヲ出入ヲ右ノ准シ誠ニ

一家ヲ

一先ヲ投棄ル盗賊ヲ和右富テ岩ノ人ヲ

十月二十日

一

九日或人来話云李藩ノ領人有之何程ノ人数可指出ト達有之何ノ心ニ
可ナラシムル勿論自後日々徒ニ人ノ心ヲ疑ヒ村田龍馬ノ如キ皆依拠ノ者ト認有之故ヤト云ヘル
當地捕縛ノ処置多ク其刑法官吏ノ専断ニ出ル事ノ如キ苛察ナラン
王師ニ抗行スルノ罪ト何ノ異ル所アラン

十一月七日発同十三日晩達

在甲府松木某書物　戊辰十一月七日

前略今朝鎮撫府御用ニ付罷出候処左之通

達書

松木源八

右當府守衛被　命護國隊長役

命ル旨　鎮撫府御達候事

戊辰　十一月

松木源八

鎮撫府
参謀印

右之通被　仰出恐入候事ニ候尚申々容易ニ引揚ケ不相成此段参謀ノ達
ニも有之在之ニ付長谷川深美同拙ニ於テ達ノ右ノ旨御請之後ニ而ハ
相伺ノ上ニ而申出度右迄ニ指置引続下ノ模様至極不穏ノ形勢ニ付
サラバ伝ヲ以テ申ス事ニ候ヘトモ取敢ズ書ヲ以テ申入候　以上　十一月七日　栄太郎殿

源八

一薩長土肥の諸藩、別段之を禁ぜず、頃日之を許し、頃ろ二人各家子弟を引連れ、
一十二の五ヶ年ニストル等を初め参与輔弼執政我等の外、各休息
ひろく名代
一仙台、邸を以て、出羽侯、賜ふ、引ほどき
一小松帯刀、玄蕃頭に改稱せり
一京都より東北伐諸藩錦旗を出せり、西、
隊長各二人大垣二人松代藩長久名不知、記し、長岡
甲府城に出し、ふ所不明、ふるふる、武名を揚め、まし、官軍随一
弘前也、又吉宇千人義居書院戦争之図あり、李山領義、砂、作之
如此事、智慧也

(二五)武敏院十一月六日自殺後新營、田
本自言、等病去十五夜馬場氏一回来る、仕、修十五ふり相当つる、
再ふ来候、仕支度、毎、帰宿、誠深、
ふく、人、般、連て、改、仕、なる、
数作、ふ、同代、ふ、物、他、
ふ、帰、無、通、ふ、ふ、
当、ふ、ふ、容、ふ、
ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、
事、ふ、ふ、ふ、ふ、
ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

(六) 討薩論 檄

討薩檄

初メ薩賊ノ幕府ト和親開港ヲ以テ
真眞トナシ已レ專ラ等王攘夷之説ヲ主張シ逐ニ是ヲ
假テ 天奏ヲ僞偖スル手段ヲ以テ内
訌列藩動揺兵乱相踵ノ勢ヲ釀シ已レ
ヲ得ルニ至テ 朝政ヲ専断スル
ヲ得ルニ至テ 朝政ヲ専断スル
英仏ホノ公使ヲシテ紫宸ニ
使ノ江城ニ入ルヲ悪ミ今ヤ公使ヲ
其術ヲ相反スルヤ是ニ因テ之ヲ見レハ其十有餘年ノ
王攘夷ヲ主張セシ裏情ハ只幕府ヲ傾テ邪謀ヲ
ント欲スルニ在ルヿ昭々可知薩賊多年論許万端

上ハ天幕ヲ纂殪シ下ハ列侯ヲ数閲シ内ハ百姓ノ怨嗟ヲ致シ外ハ万国ノ笑侮ヲ召ク甚シキ尾ノ度典章ハ悉ク其常ヲ失ヒ文武是備レ
皇朝陵夷極レリト雖モ甚シキ尾ノ沢ヲ布リト雖モ甚シキ尾ノ害ヲ被ムラシメサル也古今ノ沿革ヲ観レハ甚シキ尾ノ権ハ甚シキ尾ニ大法眼大法王ト号シ列侯ノ徽爵ヲ奪遂ニ皇国ノ劉姦ヲ謨ヲ任意廃絶シ朝変ヲ易ヘ国ノ典章ヲ紊ヲシテ蕩然地ヲ掃フニ至ラシムルノ是ヲ以テ是ヲ観レハ甚シキ尾ノ権ハ甚シキ尾ニ非ス
薩賊雪積以来擅ニ権家葦族ヲ擯斥シ
皇族ヲ奴隷ノ如ク視シ猥ニ諸州郡不逞ノ徒ノ己ニ付スルモノヲ援擢シテ是ヲシテ青ヲ紆ラシ紫ヲ抱カシム綱紀錯乱下情ヲ上達セサルヿ今日ヨリ甚キハシ甚常ノ不問ヲ得ンヤ」

伏水ノ事ノ私闘ト公戦ト孰レ曲トシ不可知苟モ
王者ノ師ヲ興サント欲セハ須リ天下ト共ニ公論ヲ定メ鼎
室已ニ決シテ然シテ後徐ニ之ヲ討スヘシ然シテ後徐ニ之ヲ討スヘシ然ルニ倉卒ノ際
妄ニ錦旗ヲ動シ遂ニ幕府ヲ陥レ列藩ヲ劫迫シテ征東
ノ兵ヲ訓発スル是
王命ヲ矯テ私怨ヲ報スル所以ノ
奸謀也甚常ノ何ヲ以テ之ヲ掩ヒ得ンヤ
薩賊ノ無状東下以来所過ノ処侵掠セサルヿ無シ或ハ人ノ
財貨ヲ剽掠シ或ハ人ノ婦女ヲ奸シ或ハ人ノ家屋ヲ焚毀シ甚シキ
ニ至テハ極レル無辜ノ人ヲ捕ヘ極レル無辜ノ人ヲ殺戮シ残酷
飽ク迄食ヒ尽シ飽ク迄飲ミ尽シ甚シキ尾ノ名号ヲ仮リ大政官ノ
規則ト称シ
皇
今上陛下ヲ擁シテ擅ニ名ヲ偃ニシ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

心ニ至リ（也）更ニ仆ツス可ラ得ンヤ
井伊薩ヲ極原ヲ等ハ徳川氏ノ親族也殊ニシテ其宗ヲ伐
ン伐シム尾張越前ハ徳川氏ノ親族也殊ニシテ其宗ヲ伐
シム岡州ハ前内府ノ兄也又ヲシテ弟ヲ伐シム備前ハ前内府
ノ弟也亦ヲシテ其兄ヲ伐シム小笠原佐渡ヲハ其父
也又ンシテ其子ヲ伐シム陛下之カ名義ヲ飾リ曰ク天ノ下
王土ニ非ルヒト鳴呼義戦ニ非ルヒト鳴呼義戦ニ
倫ヲ斁リ今上陛下之初政ニテ保平ノ枝葉ニ超セシム
吏罪仆ツ可ラ問ヲ得ンヤ
若ノ詔斜ニ岡ヲ是ヲ親シム蔭蔽ノ為ニスル有幼帝ヲ劫
制シテ其邪ヲ除シ以テ天下ヲ救リ莽操寧ロ懿ニ勝ル

貪残ヲ饗雷（ホノオ）劫暴虐ヲ極ル黄巾赤眉ニ過キ天倫ヲ
破壊シ仰章ヲ滅絶スル奏政宝堰ニ超セリ列爵誕寛（寛）セラ
視スルニ忌ヲ両ニ京師ヘ（上）奏シテ方民愁苦列爵誕寛セラ
ル、状ヲ曲諫スト雖モ雲霧擁蔽逐ニ天聞ニ達スルコト
十リ若嗚乎以テ之ヲ諫争セスンハ天下仆ニ非ラ再ニ青
天白日ヲ見ルヿヲ得ヘキ於此敢テ成敗利鈍ヲ不問奮テ
吉義挙ヲ唱テ元四方ノ諸侯貴賤ノ忠天ノ誠ヲ同フスル
ノアラハ庶幾ハ我列侯ノ不遜ヲ咈ケ 皇国ノ為ニ其振
テ此賊ヲ屠リ以テ既ニ覆ル之ヲ振ヒ上ハ汚朝ヲ一洗シ
下ハ頽俗ヲ一新シ内ハ百姓ノ塗炭ヲ救ヒ外ハ万国ノ笑侮
ヲ絶ツ（ヤ）以テ 列聖在天ノ霊ヲ慰メ奉ルヘシ若尚賊ノ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

窮絡中に在て名古大義を不弁或は首鼠両端を
持するの即ち當那ノ徒在れ之に於て
之れ天下ノ諸侯義ノ兵ノ臨時當新之れ存ノ可知
二月　奥羽北越同盟
軍政官知り府

(三)北越諸侯が
今般松平肥後賊徒を集め隣境に兵を出し官軍に抗し
暴激益相募り候達　天聽を驚
候事合退治仰付られ候に付ては肥後に乗込
歎願申出伏見暴動一挙を企候長之兵城落候に向
毛頭その之れ有ら不ず幸ひ之れ有ら候ては却て
天朝之御為不宜候間速に兵を引揚
候様厳重御沙汰有ら度此段歎願申上候以上

天朝之御為不宜候間速に兵を引揚
候様厳重御沙汰有ら度此段歎願申上候以上

(四)北越諸侯が
今般松平肥後賊徒を集め隣境に兵を出し官軍に抗し
暴激益相募り候達　天聽を驚
候事合退治仰付られ候に付ては肥後に乗込
歎願申出伏見暴動一挙を企候長之兵城落候に向
毛頭その之れ有ら不ず幸ひ之れ有ら候ては却て
天朝之御為不宜候間速に兵を引揚
候様厳重御沙汰有ら度此段歎願申上候以上

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

寛大ノ仁政ヲ施シ下ノ疾苦ヲ問ハセ又ハ前国作陽川ヲ
管スルノ洪水ニ乗堤数十ヶ所又切所数万之耕地ヲ荒ニ
シ桐成ノ上民家押流シ一家具飯米ヲ
之ヲ民旦夕飢餓ニ至ラン迫リ
許万民生活之道ナク悲痛愁哭
是ヲ之我英筥ト申候者今日ヲ事ヲ徒ニ今
一国ヲ主ル申所ヲ不ラヌ男ニ
ラヌ実ニ賊侯ノ政ヲ民再生
陛ヲ拳ケ士民ヲ天ヲ地載ル
信慕四海ニ而信治ノ至ル必ス
ト帝ノ恃ニ新ラシ今日ノ急ヲ頭ヲ

五　新潟兵庫港之節ハ日人ヲ雑シ
　　メ且外国諸公使及北方諸侯之和親ヲ厚クス事
六　当港全権ヲ人撰シテ置ク事
七　ホリス取締ヲ約定ス事
八　港内碇泊船ニ事
九　入津之規則
十　外国人居留地ニ事
十一　議政所ニ事
十二　日本奉行ト他諸役人ガ外国ノ諸公民ニ対シ
　　恣ニスル事
以上

第壱大新聞

（完）新聞　千八百六十八年第八月十九日

イトワルスル

此前条之イトワルト十二条ヲ以テ南方政府ヨリ各国ヘ
第一ヶ條ハ十二ヶ條本文之事件ヲ右之布告ヲ以本ミニストル
北方武器ヲ売渡ス事ヲ禁ス
ル高人ト布告之通ヲ以テ英ニ
朝弱無之折ヲ当港兵ヲ出シ
ヲヤ然ル処英政府ヨリ返書ニ
見合ノ方ヲ申来ル
第三ヶ條ハ旧大君之有ル
ニ土石壁（ストンワル）鉄船ヲ買取ル事

物ゝ如ク、引渡ノ大意之事ニ及ヒ白石ヲ相煩ハシ候事ニ
小笠原政務総裁職タル事ニ
幷ニ開国ニシテ諸港ヲ開キ——ニスヘシ外国ニシテ
ヨク各国ノ情態ヲ知リ事ニ当ルヘキ——ニスヘシ外国ニ
対シ和親ヲ厚クシ信義ヲ重ンスヘキ——ニスヘシ宮
中ノ儀式ヲ正シクスヘキ——ニスヘシ
小笠原政務総裁職ハ
朝廷ヨリ仰付ケラルヘキ事ニ
右ノ条々ヲ以テ
徳川家ヘ御内命ノ事ニ
小笠原ヘハ
徳川家ヨリ御内達ノ事ニ
右ノ通リ相決シ候ニ付テハ
朝廷ヨリ
徳川家ヘ
小笠原ヘ
御沙汰ノ書取ヲ以テ
御達シ相成ル事ニ
右ノ通リ相決シ候ニ付テハ
朝廷ヨリ
徳川家ヘ
小笠原ヘ
御沙汰ノ書取ヲ以テ
御達シ相成ル事ニ

宮様ヲ仮政府ヘ
朝廷政府ニ復スル事ヲ希フ
ヲ嬉ト方今ノ戦闘ハ唯征奸賊ノ
外国ニ布告之信ヲ各諸侯ニ
終ニ自ラ政権ヲ
天朝政府ヘ
天朝政府ヘ一ツヲ建ルヲ
七月廿
```
```

柵

柵ヲ設け招請セしめ又呼テ御客様ト称
ーノ由之ノイトワル之変名セ云ハナリ
此両夫自ら称ー海内ニ軍機ヲ知ルト云
其妄言不悪也既ニ官軍之手ニ捕ワれト
事天ノ四時スル処ト慎死ニ至こ不子ルノ
妾婦後国越国ニ生 [redacted] 渡巷スル所ノ此女ヲ携 三十七ナル者 矣
ノ板下駅ニ四月廿日到着セしめ是迄ハ
横浜港内ニ常在セシト云板下駅ノ者花
此トナリノ外国ノ婦ヲ見ント競テ其旅亭ニ入リ
床ヲ踏落し [redacted] 逑異ヲ破リ撤し見ハ安ラ日本ノ
婦人ナラ皆浴し...もなしと云

幸 又子ル存込ミ詩

一 鉄船ハ故幕府之船也右ハ板倉小笠原両度ノ書翰を以之ニスペトルニ可申遣

一 右使節ハ重臣之者ニ全権を与ヘ可差

一 首一敬礼を厚し節道を正しくとすへし ー も立流なり贈物ニ可持来すへし

一 船ハ金と引替ニ之ト云ハ持来難ハへし 依ラ十萬ドル持来るへし 依回幕府ニて相拂ハ相当ハる金ニ可ハ我カ發さなくすニ

一 船を夜ハ臥ゆる獅子を捕るが如く捕んとすれハ大害有り故ニ談判ニ夜ハ事を仕へし 依ラ金配之上

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

急ゝ出帆す〳〵し

一銭船該到ゝ共も出帆し兼
一ミニストル大ニ新政府を厭ひ奥羽を助るの心切ゝ故ニ彼
到も事ゟ心易く可整ゝ雑説
一布告文ニ我右該到ニ付ゝ公事ゟ
リヤ松陽帆相成ゟ右ゟ条細一
一鉄船該到ゟ奥得ゟ船を
一加州行ゟ方ゟ布告文一條ゟ
一右ゟゝリゟ船を海帆ゟ所ゟ
一、

六月十六日 北地奥羽会議ゟ
一各藩ゟ信義ゟ白石ニ
一市民ゟ故幕府ニ
一歎願ニ先ゝ是ゟ
ゟ実ゟ
一列藩君侯早速ゟ
諸侯ゟ一門ゟ
一奥羽ゟ
一徳山三好両藩ゟ
謀ゟ
一市澤意奥羽諸氏ゟ布告ゟ

右仙薗習田致吏
小笠原長行殿
三好駿助
備中松山板倉侯変名
儒山四方介

(三)写

世戦新潟表ニ於テ幕師西洋学ヲ
田薗裁判ニ条約ニ相成ル由ヲ
カ国史伝載
皇国ニ又
條約相定ニ当リ美利名薗仮
但至急ニ
御手ヲ以御内願相
前未曾有ノ薗ニ
御座候

条件ハ右全権ニテ仕事

(三)写

新潟開港仮条約ノ事薗ニ
ニ折柄小薗ニテハ不可ニ付此度
中上京シ如何ニ
御座候ヤ
承仕リ度ニ付先ハ
中談判ニ上仮条約件ニテ
御遣存ニ
御座候ヤ
以上

松平大学頭
松川能登
ニ従中務大輔
松板陸奥
阿部豊後守
松村筑前

相与同盟可申大敵ハたゝ
於玉体可申ハ箇本
先水野越前守、伊元武兵
衛尉ハ江田八洛
於会中世子ハ高
於会津ハ古田松庵
会津侍従ハ根来幸兵
衛尉ハ稲田九郎
兵衛大内義隆ハ
内室長家宿ハ右色幸悟
於田方ハ箇田又右
衛門ハ幸悟
御台ハ春日

屋ニ而ハ家中ハ
此方仙蔵ハ両屋ハ使者を以
室国ハ為ハ老力ハ
ハ分而ハ当国ハ列侯ハ一円ハ今後ハ上
老奸賊ハ梟首ハ石附ハ命
室ハハ為ハ老力ハ
列侯ハ一円ハ意ハ
於ハ一円ハ盟約ハ
高家老力ハ
○別ハ盟約ハ
ハ一、ハ一、ハ
ハ一、ハ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

三 仙台藩ニ於テ同盟ノ将士

皇国ノ為ニ尽力一同ノ至情ヲ感シ大事件ニ際シ仙台藩ニ於テ同盟ノ義挙ヲ賛成シ
徴力ヲ尽シ屢々敵ヲ破リ終ニ降伏セシメ其功績ヲ嘉賞シ
又 モノナリ

諸藩士

三重県士族 藤口宇一郎

三重県士族 藤口守

五 大阪官ニ建白

王政復古ノ基礎一新ニ付出来ノ事件ハ
十箇条ヲ遠ク上古ニ列聖ニオ諭廣大ニ五大洲中ニ
之ヲ皇代ニ幸過ノ実ニ難有奥大ニ
政ヲ幸徳川始諸藩ノ退討ニ付出来ノ事件ハ高貴ニ宮ノ始公卿
方大坂ニ幸ノ大蔵ニ於テ億万ノ人民ヲ安堵ニ仕候ノ新
ノ御宸意ヲ以賞懲ヲ典ヲ正ノ伏ス者ヲ容ニ海内静寂
(本ノマヽ清カ)
ニ至ル要ハ二ノ早ニ慶ヲ望ニ等シ九ノ寺ニ知恩院
徳川ノ卿ヲ退ケ奥羽ニ森ニ不等即日会津ノ退討ニ先鋒仙台
ニ命ノ仰出ニ忽ニ侵撃ニ仕ル様ニ仰ニ促ニ仰ニ仕候ニ
仰出ニ付幸ニ仰ニ奥羽二ノ
徹ニ諸藩ニ人民ヲ退討幸ニ仰出ニ付
痛ニ存ニ 幸ニ国ニ至ニ厳ニ仰ニ仕候ニ
直指ニ奮ニ出兵仕ニ 尊体容保悔悟ノ伏仕候ニ諸

臨兵闘者皆陣列前行（ママ）と誦ん誦呪ふ者
級を昇上ふこと三千條ありと雖も伏見
情あり而して所在九條殿下に濫妄仕上法
好んで容保不の容天地罪人殺戮
加ふるに有司苛政一向市民
移風一変仕宗寛典こと
市大業を創造ふ事能
戈を用ひ生活 竟に徳ふこと却
又 大政官より何人方を相変 九條殿下に
庶内行状を窺伏を以 朝敵と悪名をも相下ふ迫討ち
作出人殺及復罪重仕打ふを以今状
解兵と上是又 九條殿下に事仕奉前案内相違仕
仕、候不拘恐怪ふ以兵至仁
を布ふ以ふ事ふ 容穏を布ふ
今に在二尾ふ人民許多ふ死生
二市井者ふ名をふ正ふ
賢明ふ以ふ英断ふ以作出ふ
良修蔵似ふ 縦智有ふ
撮重ふ（ママ）作説ふ
又 大政官より何人方を相変 九條殿下に事仕奉前案内相違仕
庶内行状を窺伏を以 朝敵と悪名をも相下ふ迫討ち
作出人殺及復罪重仕打ふを以今状
解兵と上是又 九條殿下に事仕奉前案内相違仕
仕、候不拘恐怪ふ以兵至仁
を布ふ以ふ事ふ 容穏を布ふ
今に在二尾ふ人民許多ふ死生
二市井者ふ名をふ正ふ
賢明ふ以ふ英断ふ以作出ふ
良修蔵似ふ 縦智有ふ
撮重ふ（ママ）作説ふ

を饗酒色に荒淫醜声不拘学事件枚挙仕暮奢華
は暴虐刻毒掠奪常を仕到處厥苦不仕を之無害
豺狼の意ある一つの小如斯希代を恣に仕作三卿を思召柳営徹而桐成諸公参謀を誅閣
をする文渠が多年私怨を以て仕を一くと仕作禁錮と
逃竄勢流人と既に死亡多如之有之参謀作三位を誅
閣院に於て殺害を徳川を仕作始て諸侯を作退付仕作出
天下を兵乱を動かを種閣　朝廷より曲を直也
徴命を奉り逆名を受ん事を潜作姫君と為
受ん方々実に是非一時を争
王政復古更始一新と奉遵ん為の為
陽に右を口実として虚名を偽り詔勅を矯
ん暴欲を恣に洋々国威を振ん如く仕作内
在り仁政を福礼を醸一に於ては是非元通と喪権を
ん如く仕作天下万世を安ん為と機実に過て
憤懣哭ん為に敢て僭越ん罪を仕作海内諸侯共に恨
力仕大義を伸福礼を除き新物　皇国の為に願ん為
玄西郷を初め人々海内に於て戦争を相
挙ん勢ひ弥死に物狂ひ仕作江湖を席巻仕作天下
ん公一我心ん如く容徳川幕府を倒也　王政復古
更始一新ん大業を成就ん在　皇国を安全ん為

慶應四辰五月　　勇助

此度仙臺藩より以下使者を以下列侯下一同下会盟之上
皇國之為尽力致候下趣意ニ而　官軍ニ抗敵之所業有之候ニ付
約和解之為メ奥羽下列藩之内ニ而下総督府下参謀ニ
差出候下ニ付下総督府ニ而ハ下列藩之内ニ而下総督府下参謀ニ
差出候下ニ付下総督府ニ而ハ下列藩之内ニ而下総督府下参謀ニ
中元年　皇國之為尽力致候下趣意ニ而　官軍ニ抗敵之所業有之候ニ付
約和解之為メ奥羽下列藩之内ニ而下総督府下参謀ニ
差出候下ニ付下総督府ニ而ハ下列藩之内ニ而下総督府下参謀ニ

南部播磨

奮発尽力之段下御沙汰ニ候下間下速ニ帰国之上下猶又尽力
致呉候様下人数之内ニ而下差出候下ニ付下会盟ニ而
取極候下ニ付下総督府ニ而ハ下列藩之内ニ而下総督府下参謀ニ

下勅使六月二日京都下出立ニ而下仙台地下向

先陣　京都ニ而　秋月左兵衛

二　　薩州　池田伊賀

同　　大村丹後

五　　荒尾千葉

六　　大河内

数大将

弘前城中ニ

下勅使　加藤能登

下参謀　板垣大蔵

進軍　橋本中納言

下参謀　西郷吉之助

六月九日ニ仙台下入口ニ而下再会盟之上

誠言奎顔劃封疆　誠地屠元入望長岡談七郎
侍我久到頭自覚似故郷　第百弁猶俊後
裏到錦面面万兵咲待四邊金報森東奥男児
有心既只知有死不知生　爺畜成井寛幸

○左ノ人員新吉田原ニ戦ニ連ルル迄出兵皆備ノ地ニ於テ初戦ノ時ノ死傷也

(三八)六月十九日至七ツ時ヨリ戦争ニ及ビ九ツ時ニ夜ニ入ル

一左ノ肩貫カスリ　佐原八ツ　一右ノ人差指ヲ　日人斎木　脇竹ヨリ
一左ノ足甲ニ弾疵　吉田林次　一左ノ脱ガ右ノ脱ヲ弾ヌク　羽賀達吾
一脊ヲ胸ヘ弾疵　佐野平三　一左ノ頸ヲ　新宮良助
一両膝弾疵　前田梨助　一左ノ肩ヨリ右乳ノ下ヘ弾疵　大塚仲市
一右腕弾疵　陸助太七　一腕弾疵　小松戸組軍夫
一左ノ股弾疵　院内与人　一左ノ頸上ヲ当ル　川口亮治
一右ノ腕ヲ貫通ス　川口田中万右ヱ門　一右ノ腕ヲ貫通ス　陣ヤ

舞可泉紀実抄

一十月九日若松四ツ頃人ニ召連罷越蓮華寺空敷両補理被指置候士六人　三人ヅヽ半日代
夜四ツ人為待ニ被指越候老人宅ニ一人　夜一人　宿ヲ夜六人宅ニ六人宅ニ三人宅ニ三人宅ニ小
使弐人宅ニ両日ヅヽ　調役　宿ヲ夜後始動　(二日ヅヽ弐拾弐文ヅヽ本堂ノ方ニ若干)

一四ツ文、朝ノ二汁二菜ヲ至テ粗飯　一番　菓子　菓子ハ三ツ竹下駄ヲ置

一庭火焚　火箸　銘々

一酒ハ一切禁ス　(後ニ許ス)

一ものそ一玉宛ヲ量吸ヲ第ヲ手ヲヤヲヲ経候ヲ子ヲ後ヲヲ焚ヲ

吸セ口ヲ辺入口ヲ二拍手ヲ拍ヲ

一両度ニ第ヲ宿ヲ焚ヲ呼ヲ焚ヲ人ヲ抱人ヲ人ヲ路ヲ字ヲ焚ヲ二拍手

一従ヲ拝ヲ柄ヲ火鉢ヲ火ヲ又ヲ用ヲ事ヲ有ヲヲ字ヲ拝ヲ中ヲヲ字ヲ拝ヲヲ字ヲ案

一四ツ後ヲ士ヲ人宅ヲ頸ヲ人ヲ見ヲ初ヲ拝ヲ吸ヲ一ヲ切ヲ不ヲヲ

一三人共悪役并御入用銭を集ス夜具を土布団ニ枚夜具入用ニ三人共火
鉢ニ而ニ行候事を改ル
一先日草間及岩村田へ参ル節小諸沓掛ニ而奥迫田善行某旅宿ニ参ル孫子宿ニ及
取忘利人馬賃銭不徴候事明白ニ付利人ニ而ハ無之候事
一沓掛人馬継ニ而ハ先例を以小諸上田ニ而先例を以御用ニ而ハ無之候事
一小諸ニ而先年伊奈民政所ニ而呼出し吟味ニ及候節ハ先年ニ而ハ無之候事
右ハ実事ニ而ハ無之候ニ付ハ無之候ニ付ハ無之候事
多分ニ而ハ無之候事

牧野八弥太
池田権次
牧野林平
池田林平

土間

下男分

一草津ニ而ハ無之候ニ付ハ無之候事
於岩村田城内役所ニ而ハ無之候事

一隊長并東手拝　龍龍参謀軍監ニ而ハ無之候事
一岩村田ニ而ハ無之候事
一岩村田ニ而ハ無之候事

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一或人云小諸侯ニ而勤王佐幕ニ託シ私怨ヲ報ユル其故ハ近年
公儀ヨリ多クノ免役、死一等ヲ減シ砲術行業
ヲ命ゼラルヽヿ多シ然ルニ今度攻防ヲ又免役、死一等ニ而已ニ
勤王ノ名ヲ冒シ公儀ヲ欺キ奉リシ罪ハ免ルヽ事ヲ得ス
如一説ニ依ル事ニ好ミ之ヲ後世ニ伝ヘ称賛セント
云ヘトモ紀州邸ニ於テハ之ヲ称セス
一東京紀州邸ニ於テ徳川、尾州邸ヨリ出ノ郎ヲ差別ク仙臺邸ヨリ工州ヘ
在留邸ヨリ出ノ郎ヲ右近ト呼ブ如

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

836
209
3

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用